

愛知県の防災対策(南海トラフ地震対策)

中京大学総合政策特殊講義Ⅲ

2026.6.9

愛知県防災安全局防災危機管理課 山本 真一郎

全体の構成

1. 地震はなぜ起こるのか

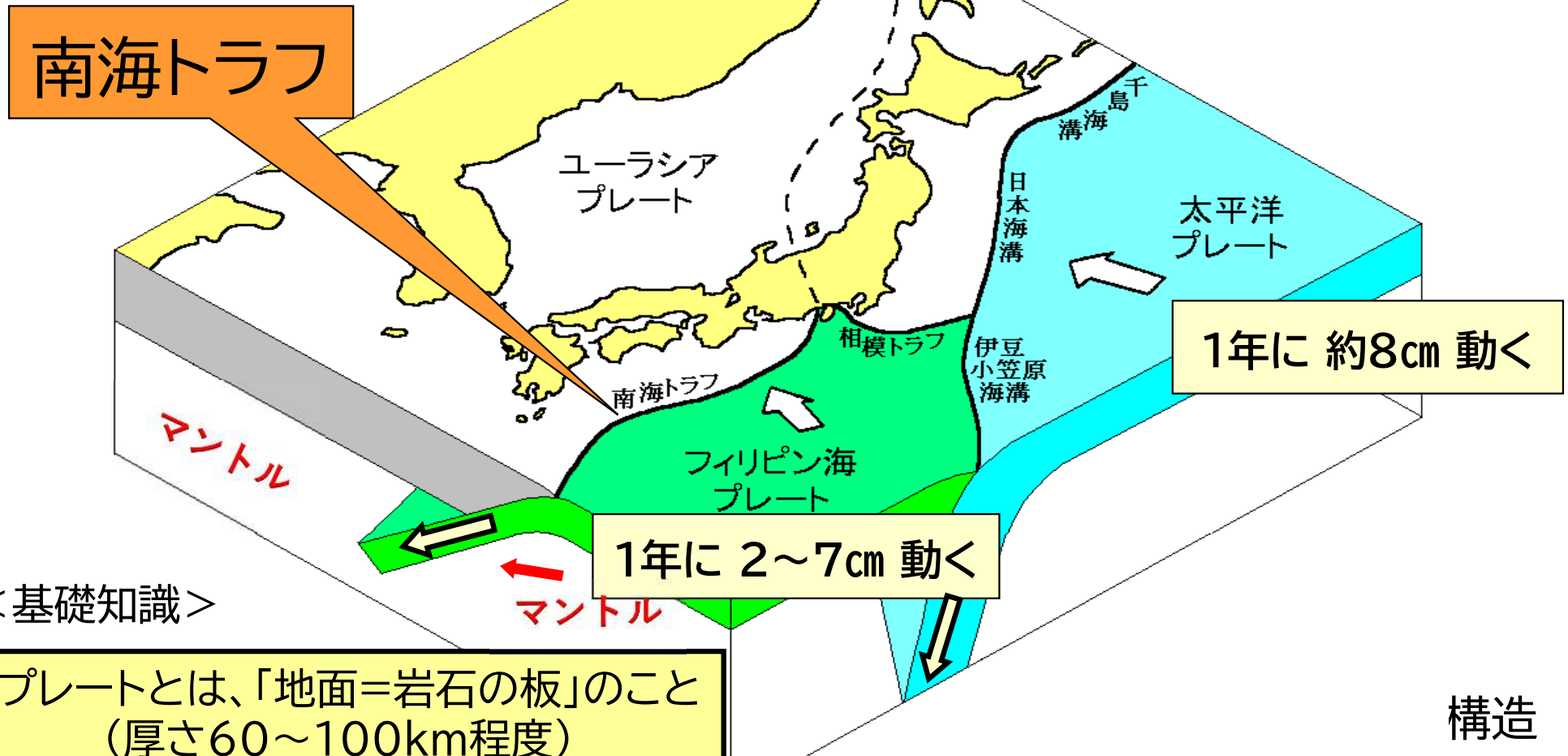
2. この地域の地震の歴史

3. 南海トラフ地震の被害予測調査

4. 南海トラフ地震に備えた取組

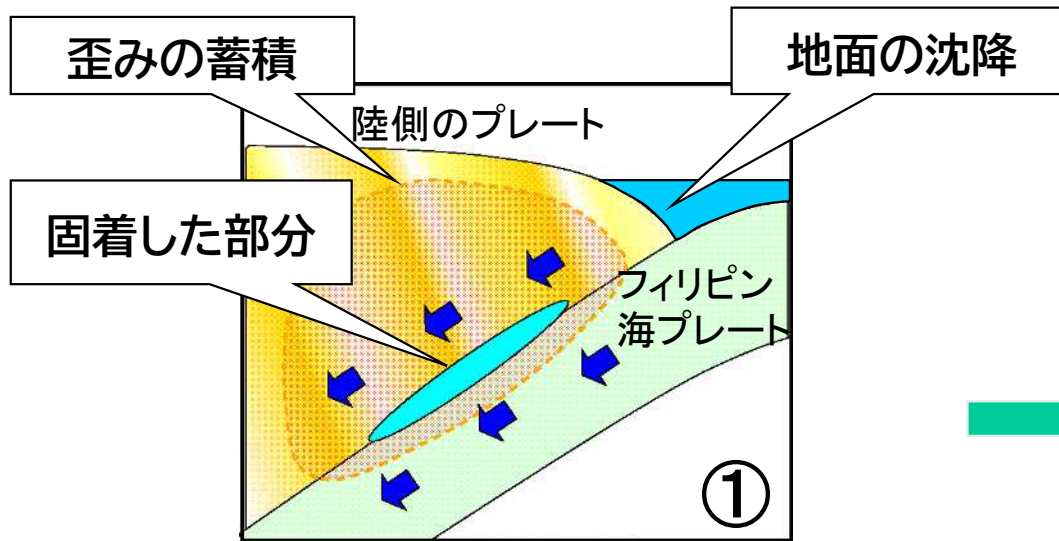
地震の基礎知識：地震はなぜ起こるの？

→地面が動いているから 

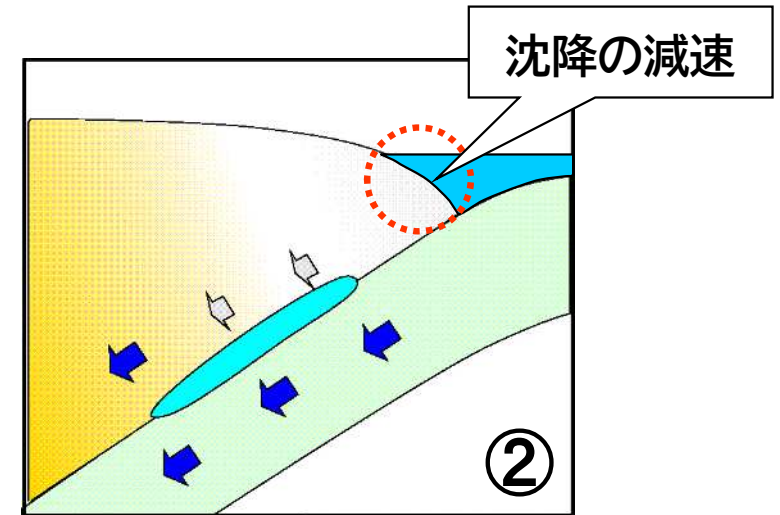


防災科学研究所HP資料に加筆

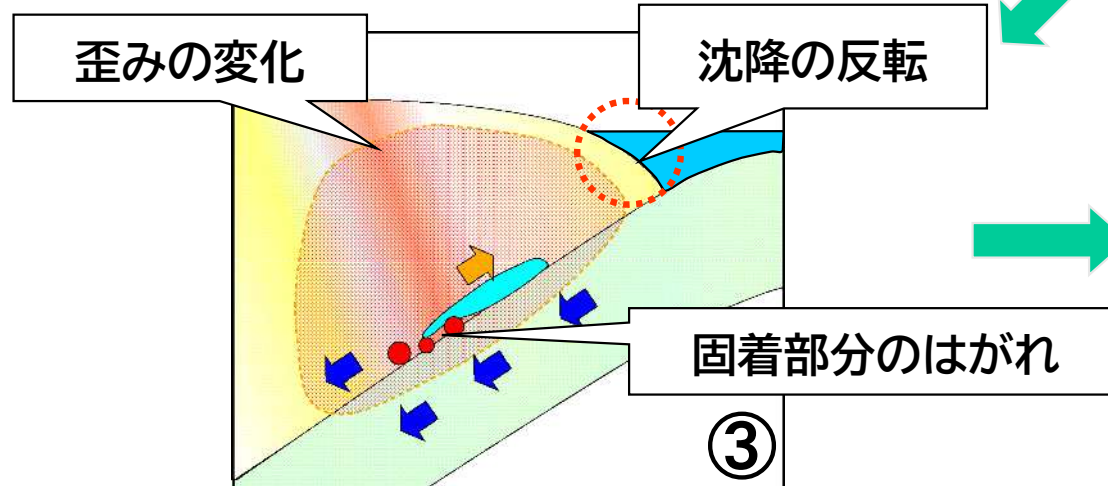
海溝型地震 発生仕組み



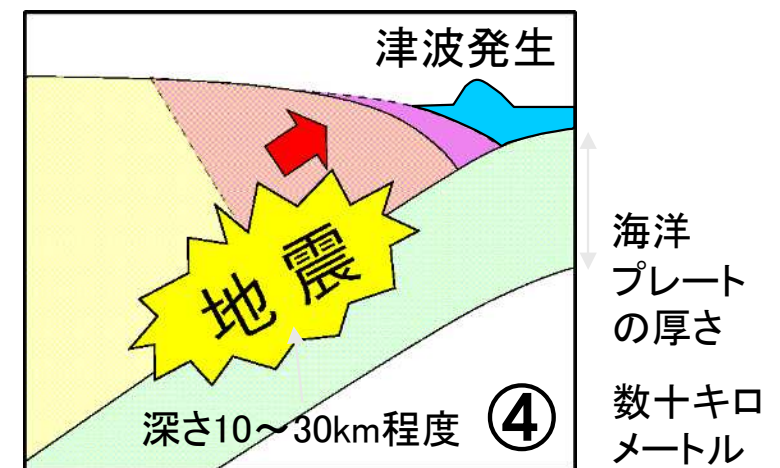
フィリピン海プレートの沈み込みにより、陸側のプレートが引きずられ、地下では歪みが蓄積する。



地下のひずみの蓄積が限界に近づく
と陸側のプレートが沈み込みにくくなる。



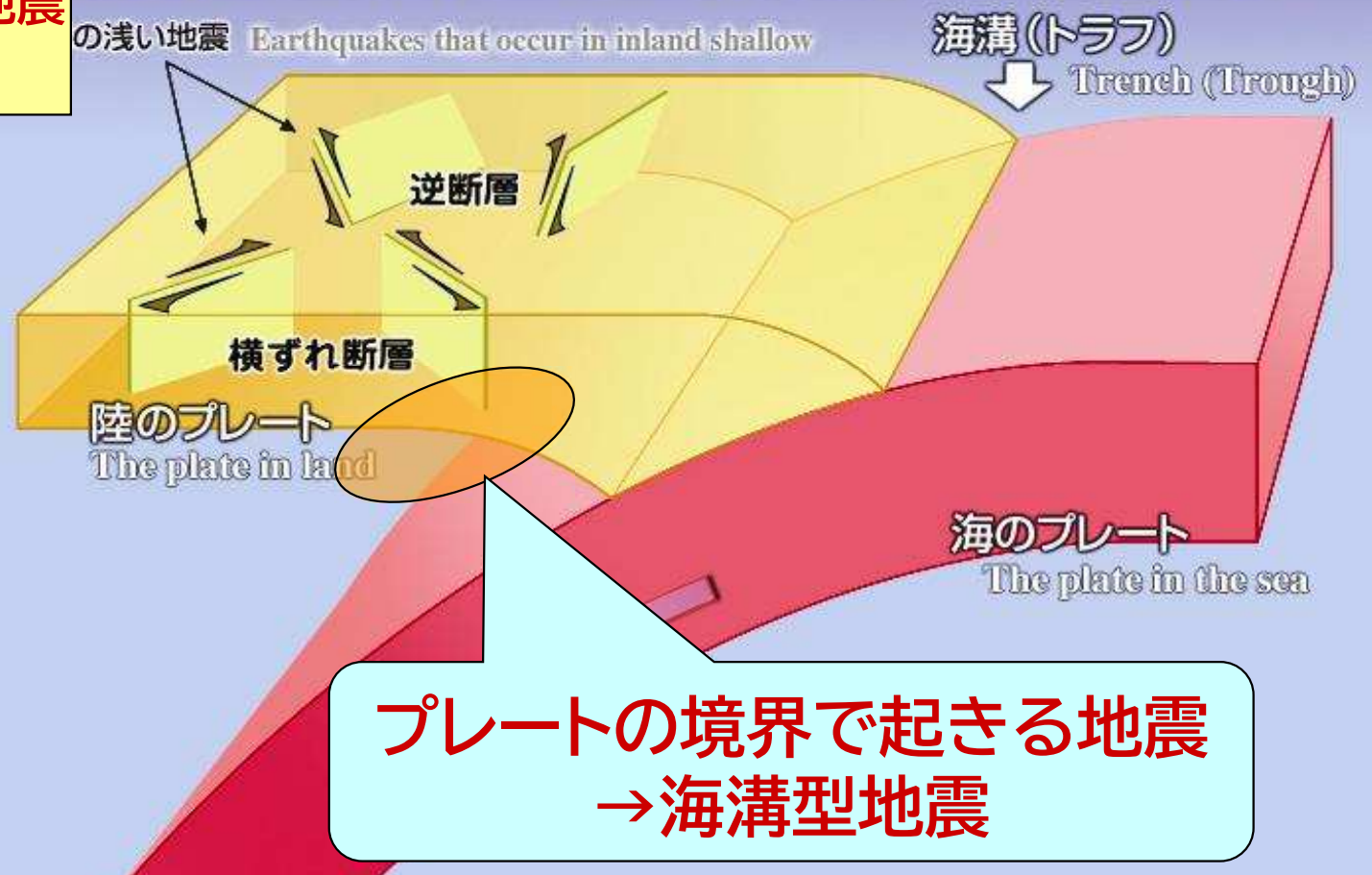
やがて上側と下側のプレートが固着していた
縁辺りで「はがれ」が生じ、緩やかなすべり
(前兆すべり)が始まる。



そして、地震が発生する。

プレート境界地震が発生するしくみ

プレートの内部で起きる地震
→内陸活断層型地震



- ①海のプレートが陸のプレートの下に沈み込む
- ②陸のプレートの端が引きずり込まれひずみが蓄積
- ③それが限界に達し、元に戻ろうとして地震が発生



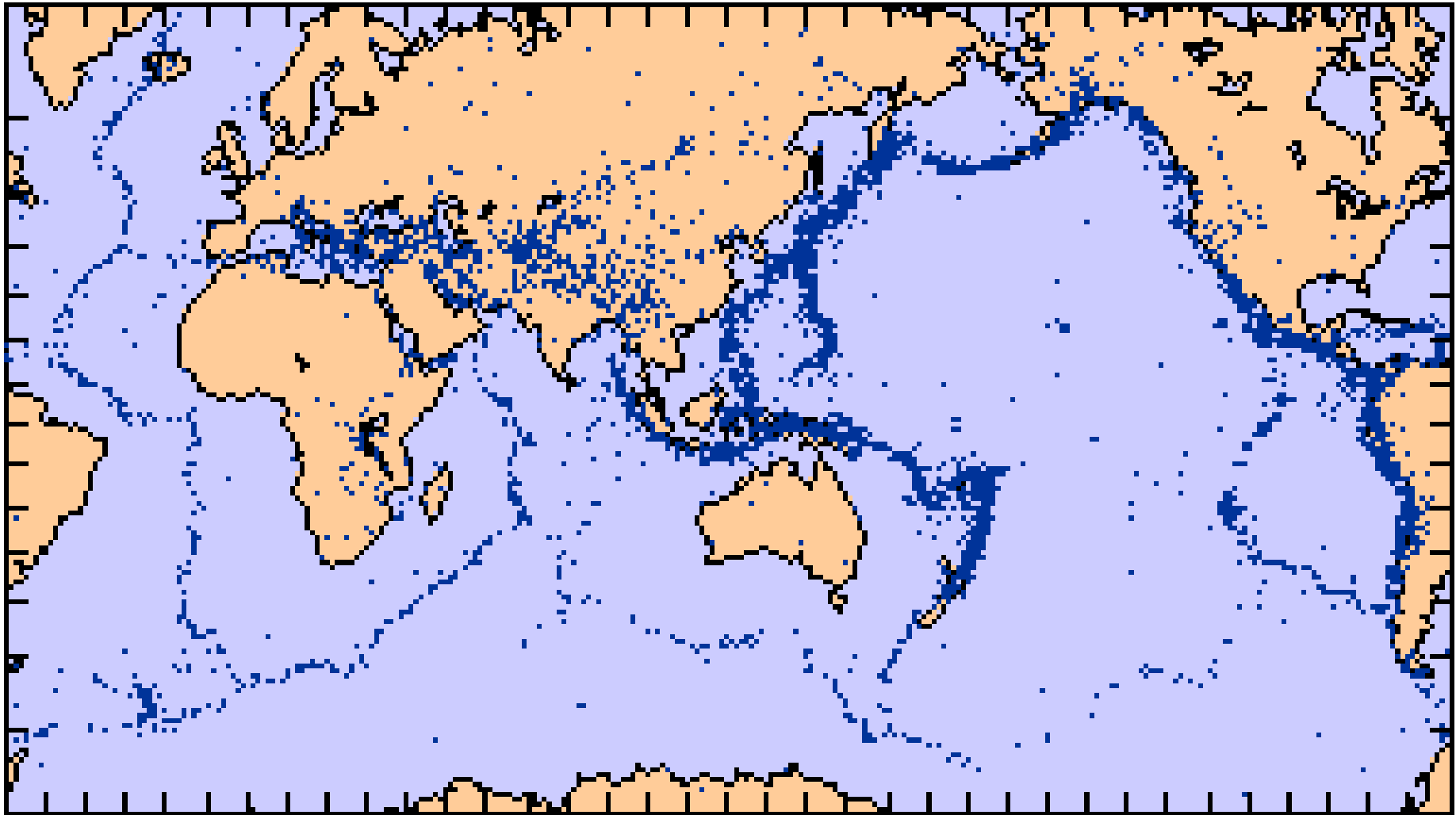
世界のプレートと地震発生



<基礎知識>

- ・地球は、10枚程度のプレートに分かれている。
- ・そのうち、4枚のプレートの境界に日本列島がある。

世界のプレートと地震発生



世界の震源分布

プレートの境界では地震が多い → 地震大国「日本」



- 南海トラフ地震を始めとした大規模地震の歴史を踏まえ、現代に同様の地震が発生したらどのような様相になるのかを考えましょう。
- その上で、大規模地震がこの地域で発生しても、引き続き社会を維持するために何をすべきでしょうか。
- さらに、個人として自分自身は何をすべきでしょうか。

全体の構成

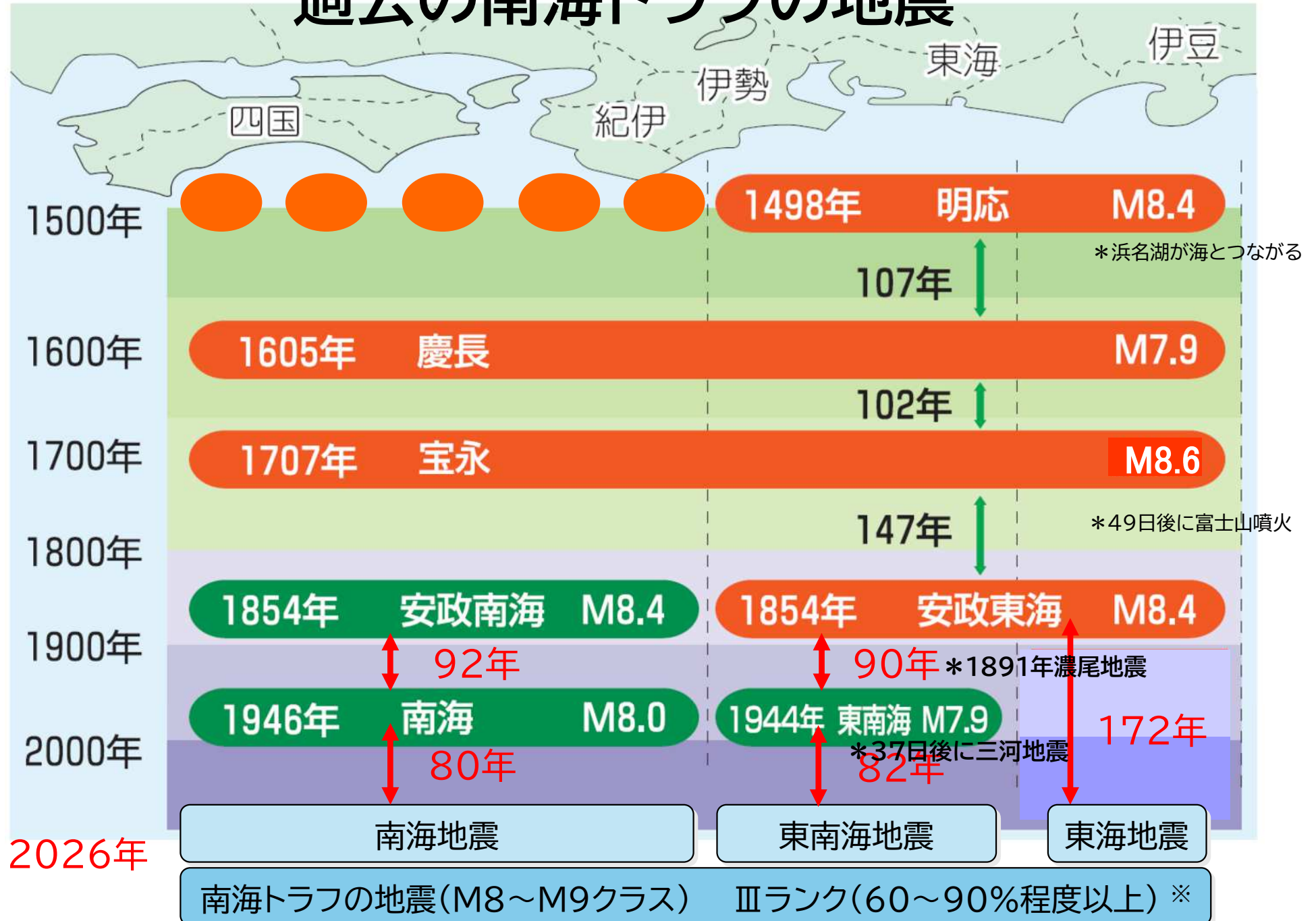
1. 地震はなぜ起こるのか

2. この地域の地震の歴史

3. 南海トラフ地震の被害予測調査

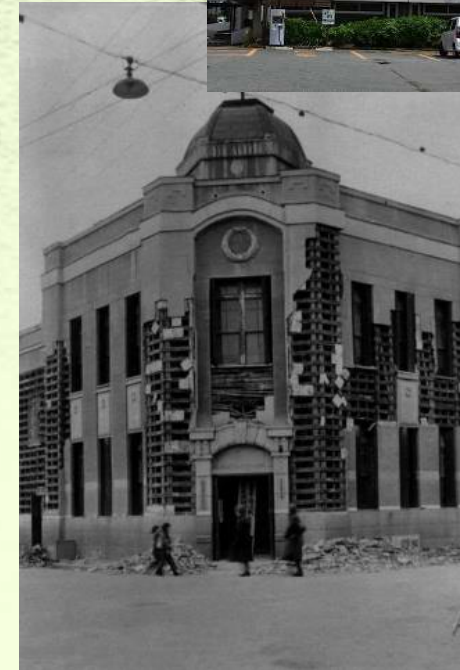
4. 南海トラフ地震に備えた取組

過去の南海トラフの地震



昭和東南海地震

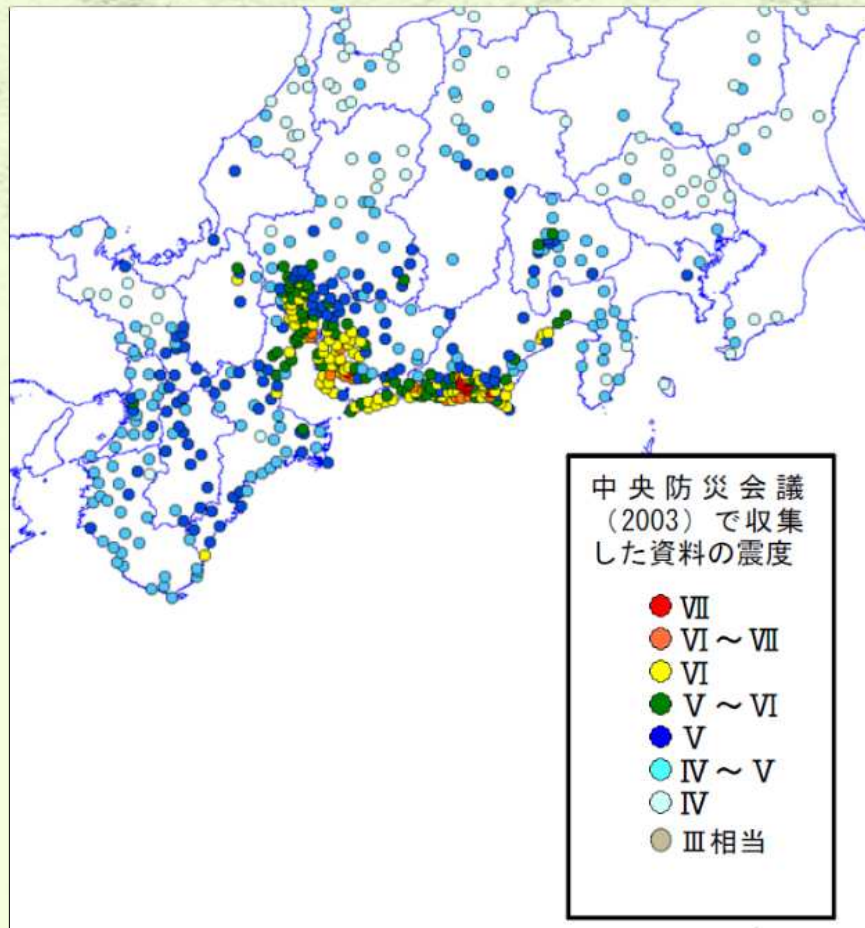
- 昭和19(1944)年12月7日
午後1時36分発生
- マグニチュード7.9の海溝型地震
(南海トラフ)
- 愛知・静岡・三重などで死者・行方不明者1,223人
- 各地に津波襲来(熊野灘沿岸6～8
㍎、遠州灘沿岸1～2㍎)



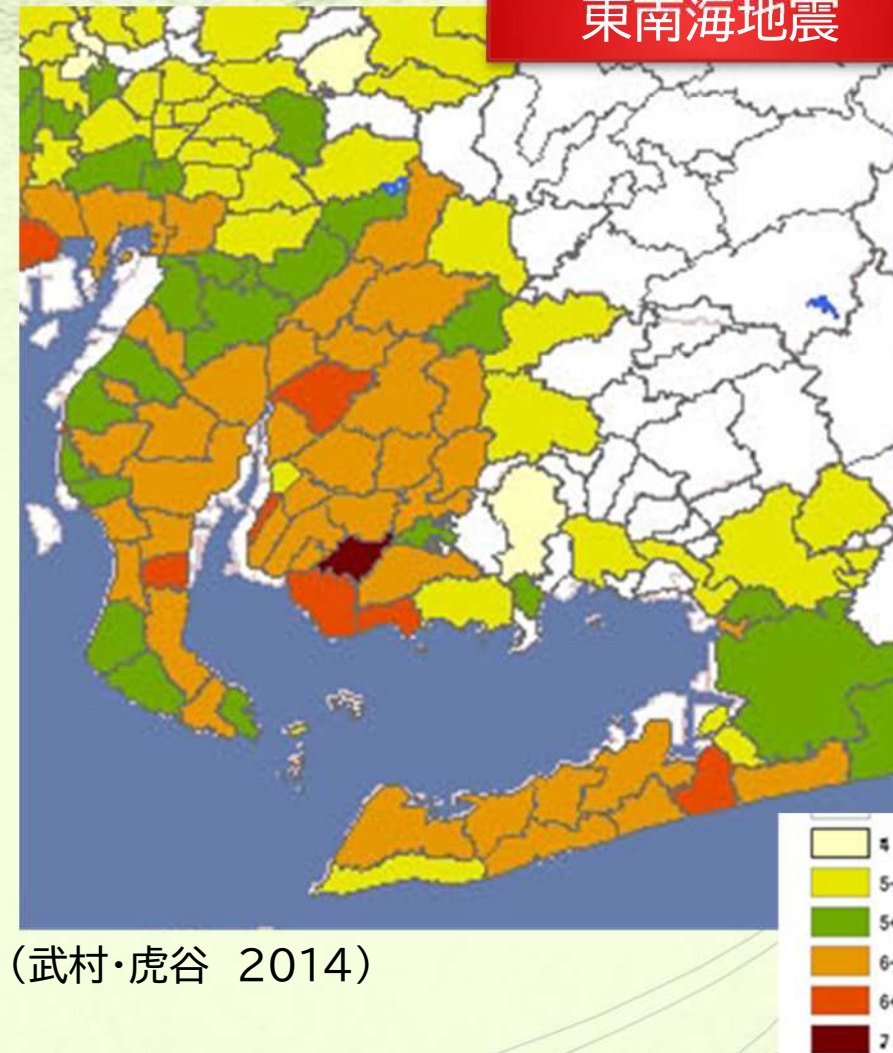
半田市所蔵



昭和東南海地震



(中央防災会議 2003)

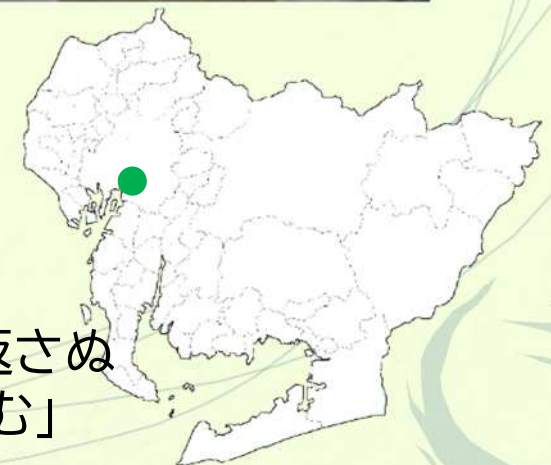


(武村・虎谷 2014)

※発生当時は体感や家屋被害の状況などから決定
のちに家屋の倒壊率より推計

名古屋市南区の碑

- 昭和63年に南区道德の日清紡の敷地に建てられ、平成24年に隣の名南ふれあい病院の敷地に移設
- 三菱重工道德工場の倒壊(飛行機の増産体制のための建築構造軽視)による犠牲者を慰霊
- 全国各地から集められた動員学徒及び朝鮮女子挺身隊の計57名の名前が刻まれている



題字「悲しみを繰り返さぬ
ようここに真実を刻む」

追憶之碑(雁宿公園)

- 地震で亡くなった学徒動員の生徒達を追悼するため、昭和25年の七回忌に集まった同級生達が募金運動をして建立
- 裏面に半田中学・半田高女・半田商業と半田・乙川・亀崎・成岩の各国民学校の殉難学徒48人の慰霊の趣旨が刻まれている
- 碑の礎石には、中島飛行機山方工場の国旗掲揚台の組石が利用されている

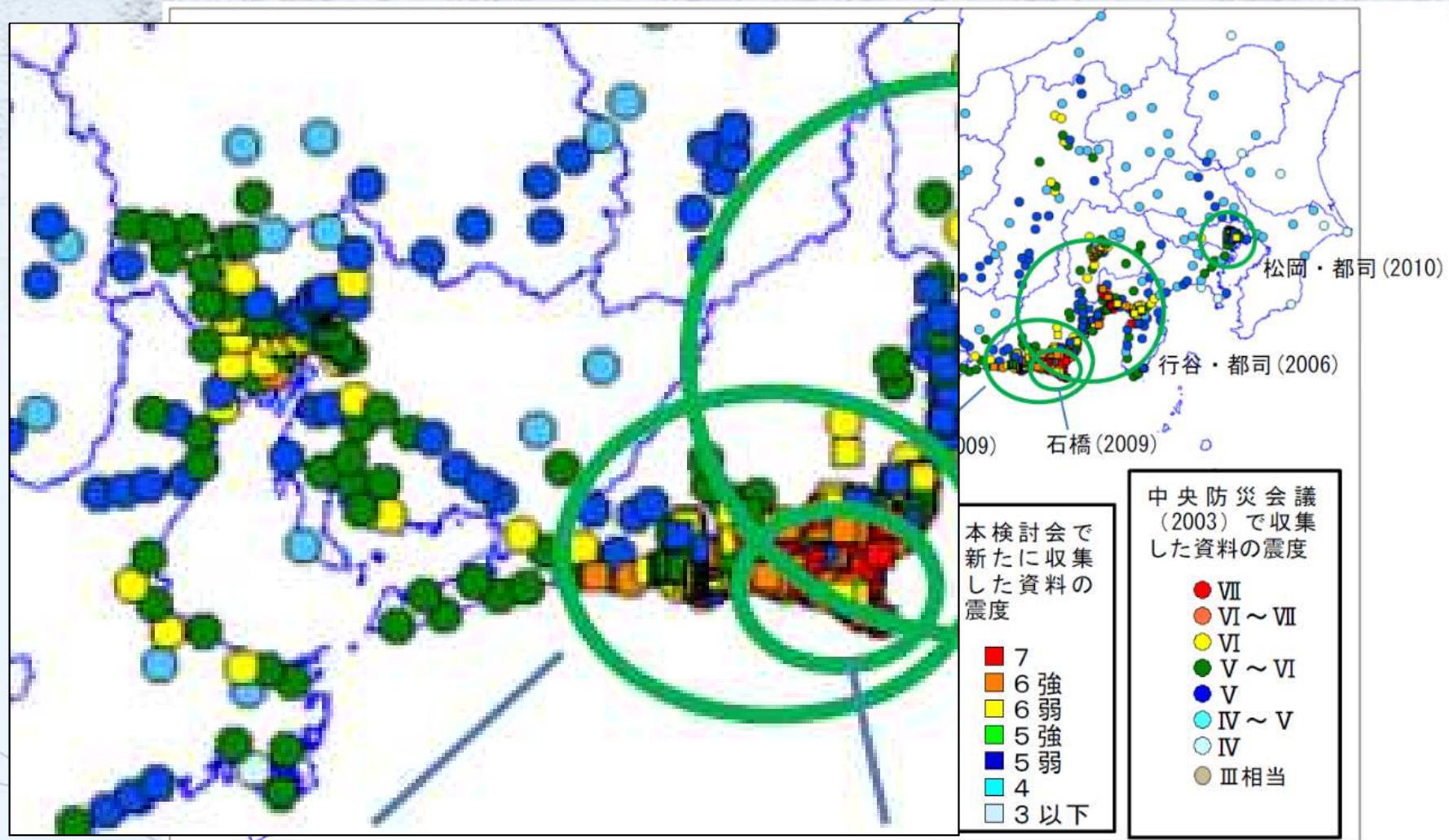


安政東海地震

- 嘉永7(1854)年11月4日
午前9時過ぎ頃発生
- マグニチュード8.4の海溝型地震
(南海トラフ)
- 東海地方を中心に震度6以上
- 各地に津波襲来
- 死者・行方不明者約2,000人～3,000人
- 32時間後に安政南海地震が、翌年には安政江戸地震が発生



安政東海地震



中央防災会議 (2003) の震度分布に 2002 年以降の文献による震度分布 (凡例 ■) を加えたもの

1854 年安政東海地震の震度分布図

津波の絵馬(御厨神社)

- 地震による津波の凄まじさを物語る絵馬
- 津波に流され、松の木に引っかかって助かった舟が描かれており、打ち上げられた舟の部材を額として奉納
- 地震の際、同神社は海岸線からほど近いところにあったが、地震から13年後の慶応3(1867)年、約180m後方の現在の地に再建される



震災鎮めの石碑(ささゆりの里)

- 安政6年に地元の網元の方が、震災が二度と起きないことを願って建立
- 安政東海・南海地震の言い伝えによれば、「大津波を伴っており、推定29mの高台まで海水が上がった」と記されている

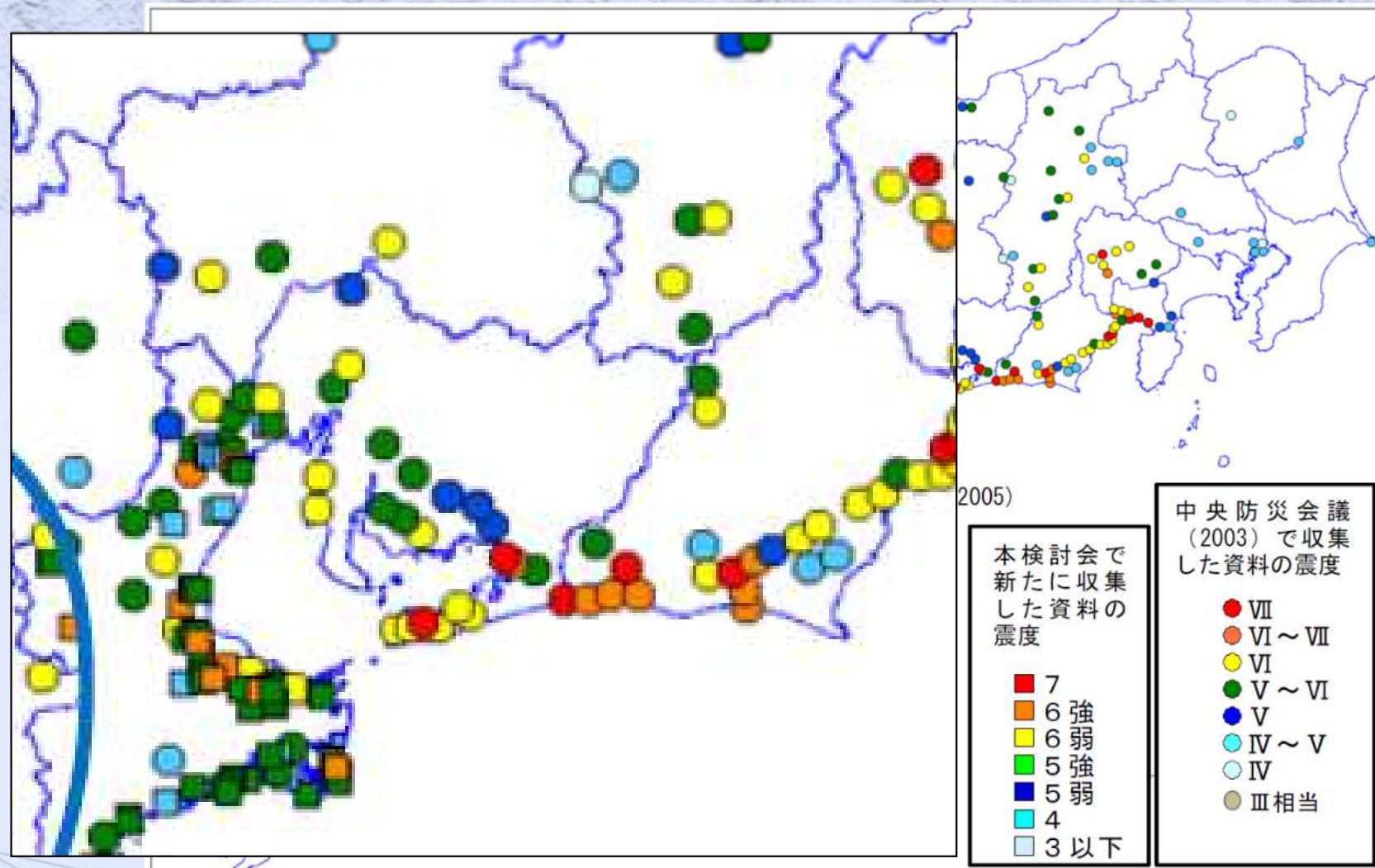


宝永地震

- 宝永4(1707)年10月4日
午後1時45分発生
- マグニチュード8.6の海溝型地震
(南海トラフ)
- 東海地方沿岸部から九州にかけて
震度6以上
- 死者・行方不明者約20,000人
- 各地に津波襲来
- 49日後には富士山が噴火(宝永大噴火)



宝永地震



中央防災会議(2003)の震度分布に2002年以降の文献による震度分布(■)を加えたもの

1707年宝永地震の震度分布図

東観音寺

- 豊橋市にある寺
- もとは海岸近くにあり、宝永地震による大津波により、現在地に移転したとの記録が残っている
- 津波前後の絵図や石碑も残されている



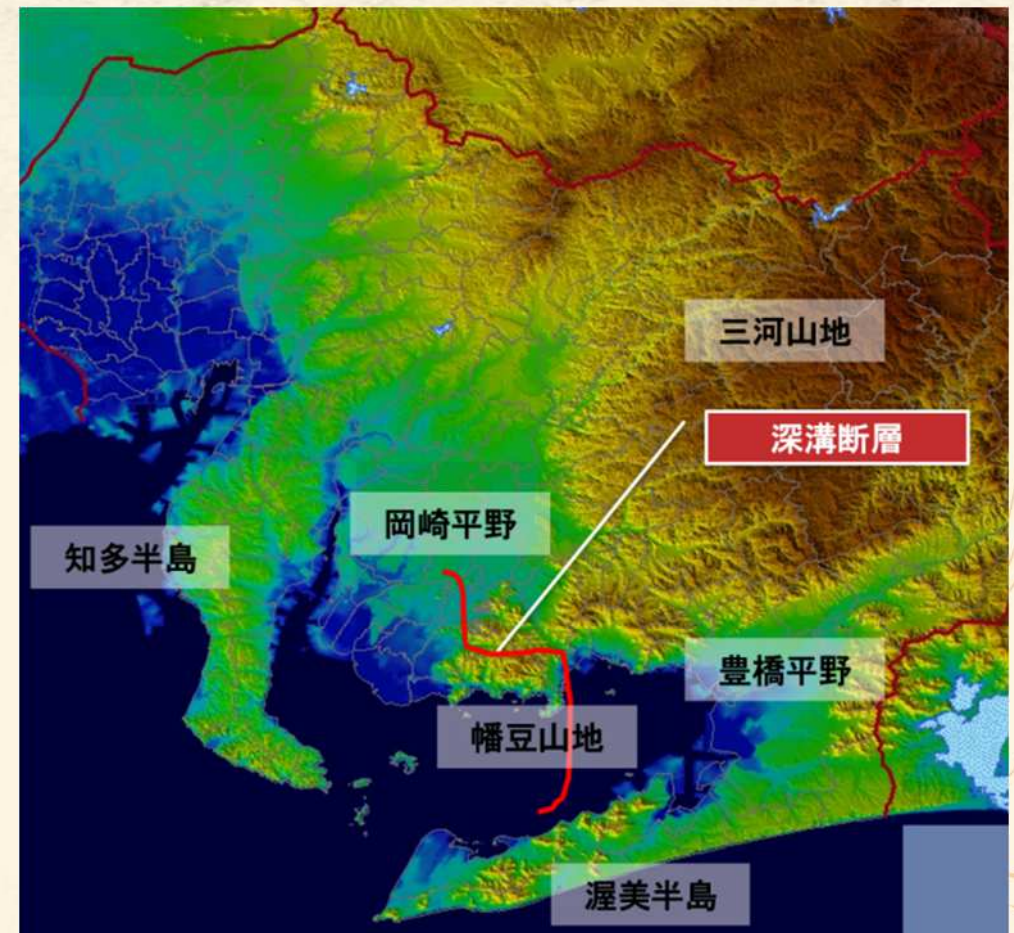
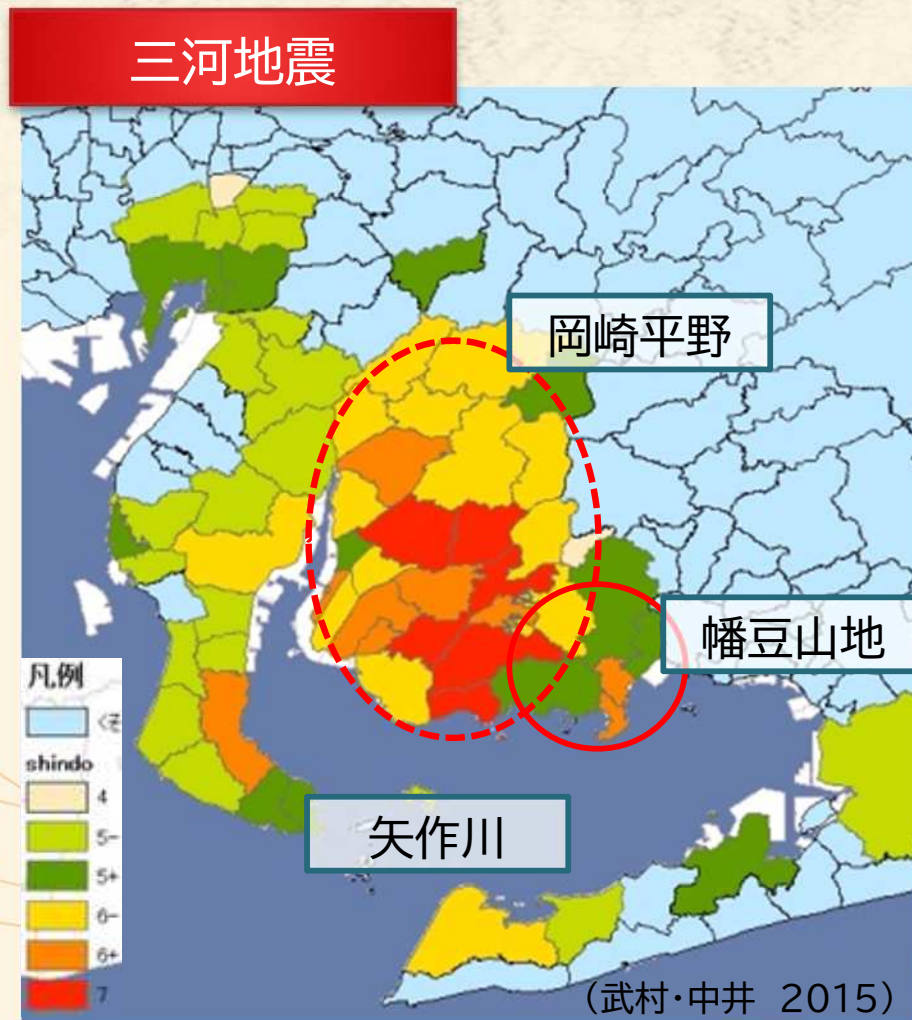
三河地震

- 昭和20(1945)年1月13日
午前3時38分発生
- マグニチュード6.8の活断層地震
(深溝断層)
- 住家全壊7,221 半壊16,555
非住家全壊9,187 死者2,306 ※
規模の割に被害大きい
- 延長9km、上下ずれ最大2mの逆断
層が生じる
- 蒲郡では1mの津波も発生



三河地震

- 矢作川沿いの軟弱地盤、特に幡豆郡の被害大



本光寺の土塀

- 三河地震等により土塀が崩壊する被害が発生
- 現在でも当時の状況がそのまま残されており、地震による揺れの強さを物語る遺構として貴重



深溝断層

- 三河地震の際にできた断層が地上に表れているもの
- 最大落差は約1.5m、最大左ずれ変位量は約1m
- 現地ではこれらの変位量が、2本の杭で示されている



わすれじの碑(形原神社)

- 33回忌の昭和52年1月に
建立
- 被害の大きかった蒲郡市
旧形原町の犠牲者を慰霊
- 碑文「…永く後世に伝える
しるしを残すということは、
まさに生き長らえることを得た者の果す
べき重要な課題であると考え…」
- 教訓を後世へ伝えることを強く意識した
内容



愛知県内外の活断層



濃尾地震

- 明治24(1891)年10月28日
午前6時38分発生
- マグニチュード8.0の活断層地震
(根尾谷断層)

※内陸地震としては日本最大

- 断層は水鳥で、上下に6m、水平に2mずれる
- 建物全壊14万余、半壊8万余、死者7,273人、山崩れ1万余



尾張紡績株式会社

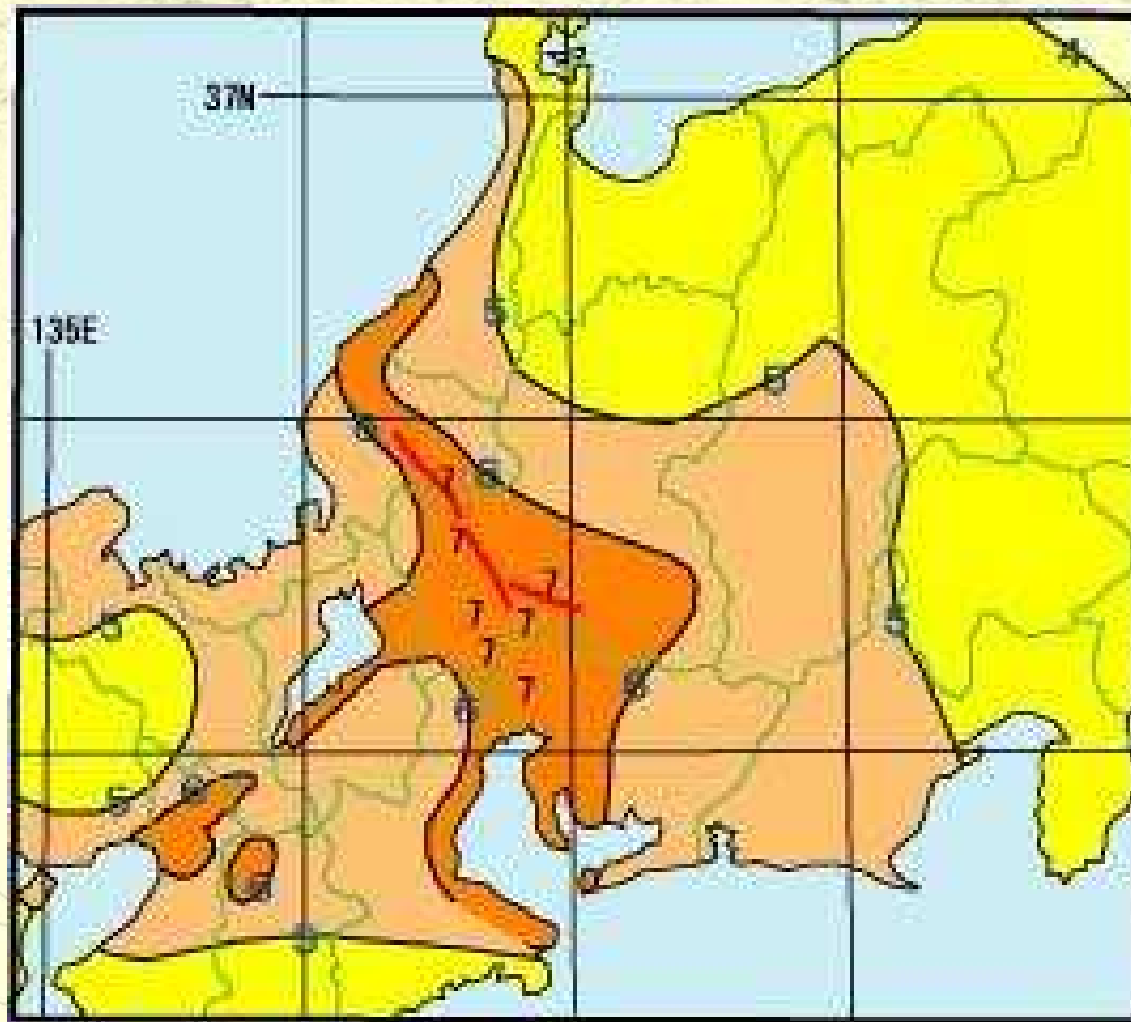


西枇杷島町 第三師団行方不明者搜索

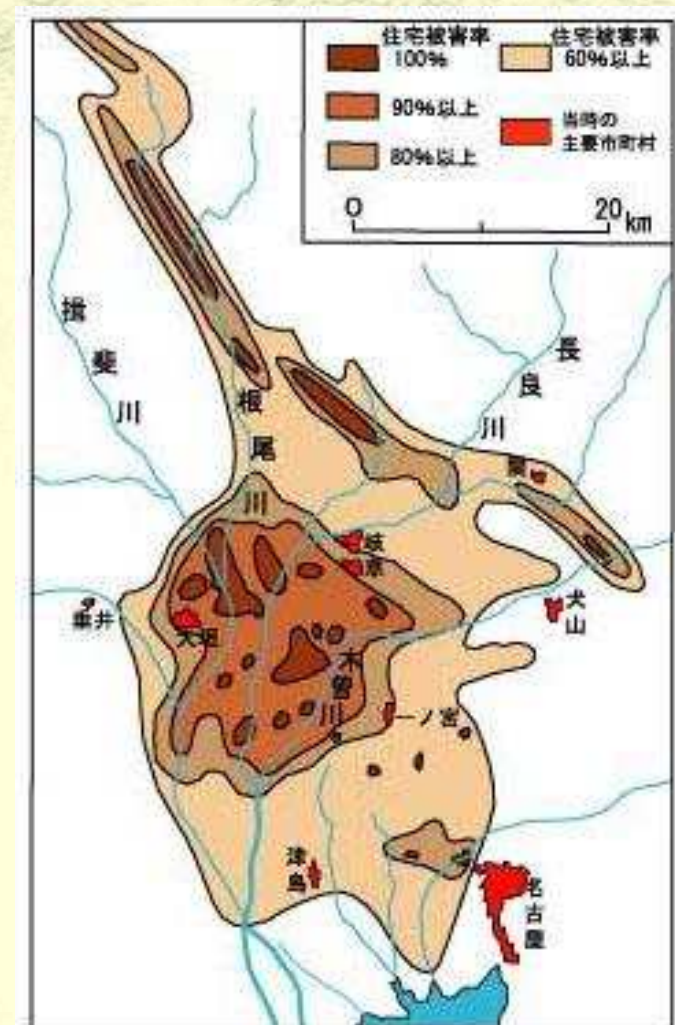


葉栗郡黒田村 炊き出し
(濃尾大震災写真帳より)

濃尾地震



濃尾地震の震度分布 村松(1976)



濃尾地震の激震域における住宅被害率 村松(1983)

濃尾大地震記念碑(天王川公園)

- 天王川公園の東の一角に、濃尾地震の惨害を記録した濃尾大地震記念碑がある
- 294人の死者、32,000余りの家屋倒壊が発生したことなど、地震による罹災の実情や、堤防や学校の復旧、救済の様子などが刻まれている

建碑式(明治25年10月27日)の様子

式典は記念碑建設場所である津島警察署前で執り行われ、衆議院議員加藤喜右衛門、県会議員岡本清三郎、津島町長小島音三郎、…およそ百三十余名が参加したという。(中略)式典後には津島神社で宴会を行い式典を終えた。また町内では午後から休業となり、酒宴が開かれて除災を祈り、また夜にはいと煙火も打ち上げられた。



大地震記念碑(清洲公園)

- 1892年11月14日に震災一周年を
記念し建立
- 復興に全力を挙げてきた1年間の労
苦を解き放ち、大々的な祝賀行事が
行われている
- 碑裏には「明治二十四年十月廿八日
大地震圧死者姓名」として、犠牲者
の姓名が刻まれる



建碑式(明治25年11月14日)の様子

当日は早天より城山の震災記念碑に大小紅白の無数の旗を西風に翻し、紅燈数百を富士山形に高く掲げ、餅・菓子・菜菓を供へ、正午十二時各宗僧侶数十名打揃い、追吊祭を行いたり、(中略)五條橋畔に獅子舞あり、河原には寄合角力あり、又生花及び作り物等の催しもありて、当日は好天気なりしかば、同地近傍二三里の遠きより老若男女群集し、頗る賑はひたりといふ。



全体の構成

1. 地震はなぜ起こるのか

2. この地域の地震の歴史

3. 南海トラフ地震の被害予測調査

4. 南海トラフ地震に備えた取組

南海トラフ地震の被害予測調査

被害予測調査とは・・・

各種の地震防災対策の基礎資料とするため、
特定の災害を想定し、それが発生した場合の
ハザード(揺れや津波など)及びハザードに起因する
各種の被害(量)を想定するものである。

※自分の地域の安全を確認するものではない。

※起こりうるすべての事象を予測したものではない。

調査対象とした地震・津波

- A 過去地震最大モデルによる想定

南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうちで過去に実際に発生したものを参考に想定

- B 理論上最大モデルによる想定

主として津波から「命を守る」という観点で、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波についても、補足的に想定

想定した地震

- A 過去地震最大モデルによる想定

南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうちで過去に実際に発生したものを参考に想定

南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで規模の大きいもの(宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震)を重ね合わせたモデル

本県の地震・津波対策を進める上で軸となる想定として位置付けられるものであり、「B理論上最大モデル」の対策にも資するもの

想定した地震

- B 理論上最大モデルによる想定

主として津波から「命を守る」という観点で、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波についても、補足的に想定

南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定したモデル

本県の地震・津波対策を検討する上で、主として「命を守る」という観点で補足的に参照

国の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」による震源及び波源モデル(平成24年8月29日公表)のうち愛知県に影響の大きいケース

愛知県南海トラフ地震 被害予測調査結果

説明資料

愛知県防災会議地震部会

2026年6月

調査の概要

- 国は南海トラフ巨大地震被害想定の見直しを行い、2025年3月に結果を公表した。
- 国の被害想定見直しを踏まえ、本県においても、**今後の地震防災対策の基礎資料とするため、最新の基礎データ等を反映し、国の調査と整合を図りつつ、被害予測調査※を行った。** ※ 前回:「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査」(2014年5月公表)

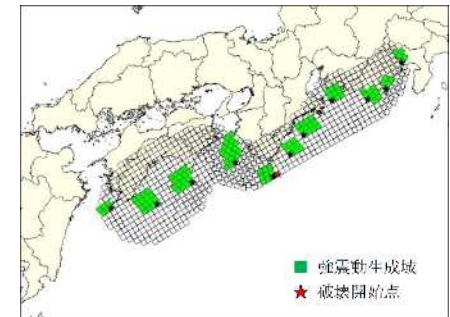
想定する地震・津波

過去地震最大モデルの地震・津波

(駿河湾から四国沖を震源域とするマグニチュード8.9程度の地震・津波)

南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで規模の大きいもの(宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震)を重ね合わせたモデル。

本県の地震・津波対策を進める上で軸となる想定として位置付けられるものであり、理論上最大モデルの地震・津波対策にも資するものである。



過去地震最大モデルの断層モデル

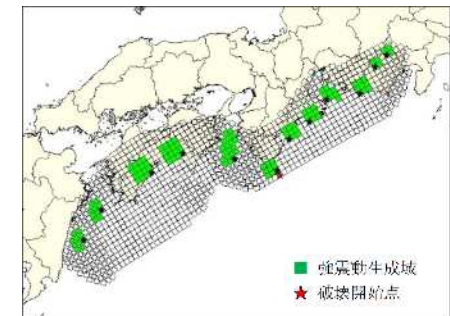
理論上最大モデルの地震・津波

(駿河湾から日向灘を震源域とするマグニチュード9を超える地震・津波)

南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定したモデル。千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いもの。

本県の地震・津波対策を検討する上で、**主として津波から「命を守る」という観点で補足的に参照するもの**である。

(国の被害想定地震ケース(5通り)のうち、「陸側ケース」及び「東側ケース」
国の被害想定津波ケース(11通り)のうち、津波ケース①、⑥、⑦、⑧、⑨により調査実施)



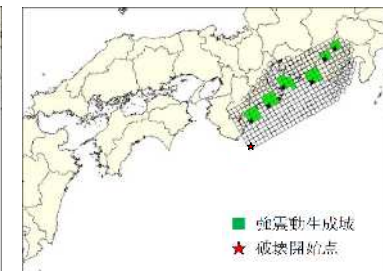
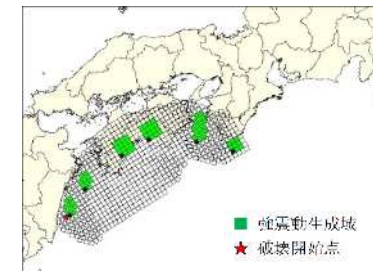
理論上最大モデル(陸側ケース)の断層モデル

時間差をにおいて発生する地震・津波

(過去地震最大モデル及び理論上最大モデルの半割れ地震(国の被害想定における半割れ地震(地震動:陸側ケース))を想定)

南海トラフ地震の想定震源域の東側(東半割れ地震)と西側(西半割れ地震)で時間差をにおいて地震が発生する場合を想定。

津波警報や南海トラフ地震臨時情報により早期避難意識が高まることなどによる被害量の減少効果等を明らかにするため、参考として実施するものである。

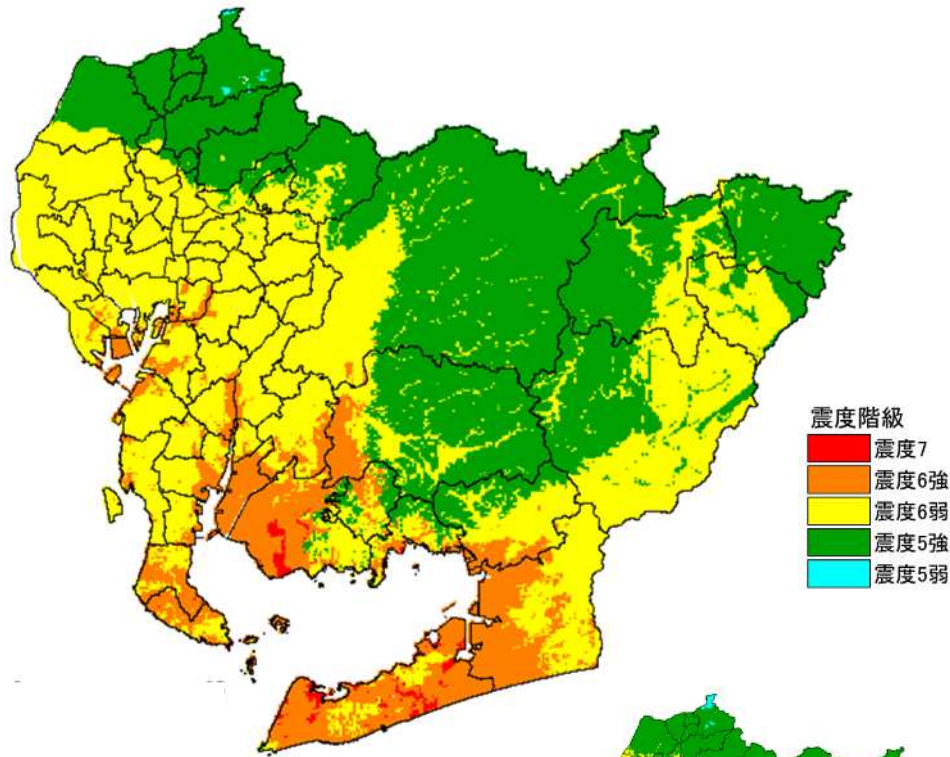


半割れ地震(理論上最大モデル)の断層モデル
左:西半割れ地震、右:東半割れ地震

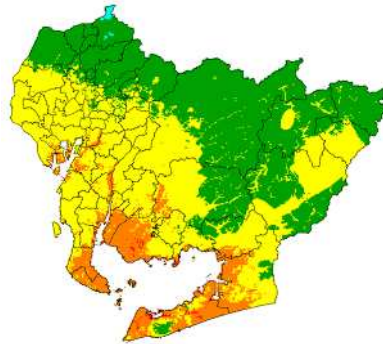
過去地震最大モデルの地震・津波による被害予測(ハザード)

- ボーリングデータ等の収集整理を行い、新たな知見に基づいて地盤モデルを更新し、地震動予測、液状化危険度予測を行った。
- 県内の広い範囲で震度6弱以上の強い揺れとなり、平野部では液状化危険度の高い地域が広がっている。
- 地盤モデルの更新により、**前回調査より揺れが強くなる地域や液状化危険度が高くなる地域が存在する。**

震度分布

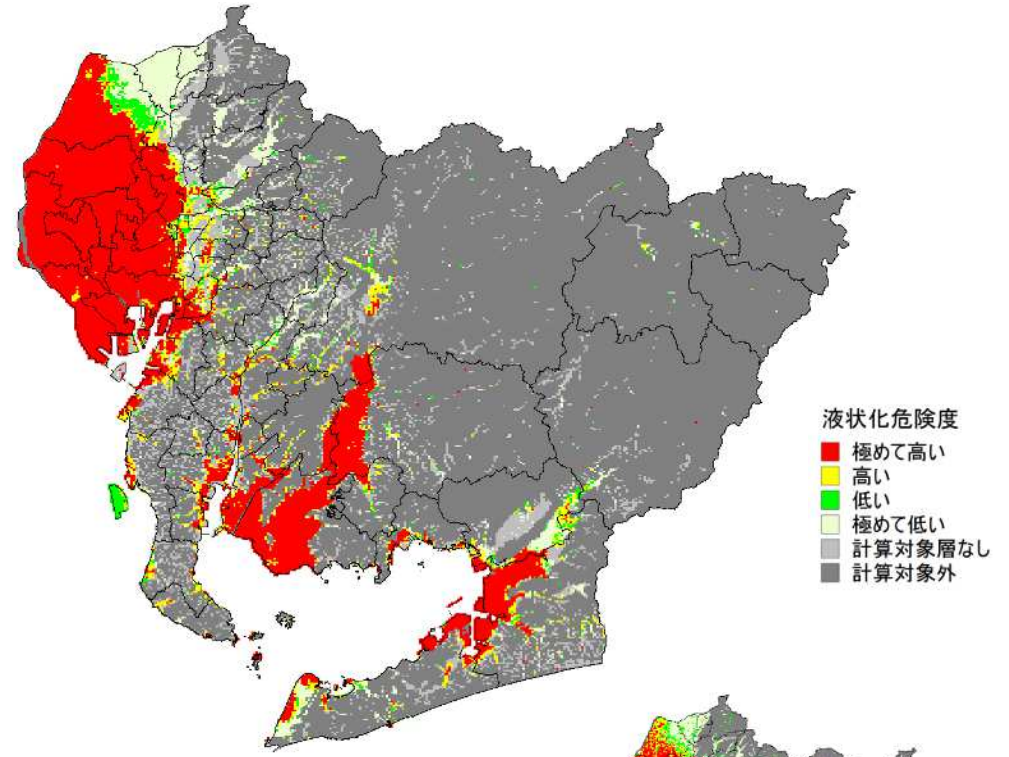


- ・県内の平野部及び半島部において、広い範囲にわたり震度6弱以上となり、一部の地域で震度7の非常に強い揺れとなる。
- ・尾張北部及び三河の山地部は概ね震度5強となっている。

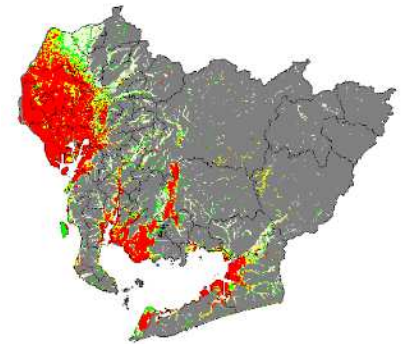


前回調査(2014公表)

液状化危険度分布



- ・濃尾平野、岡崎平野、豊橋平野を中心に、平野部で液状化危険度が極めて高くなっている。

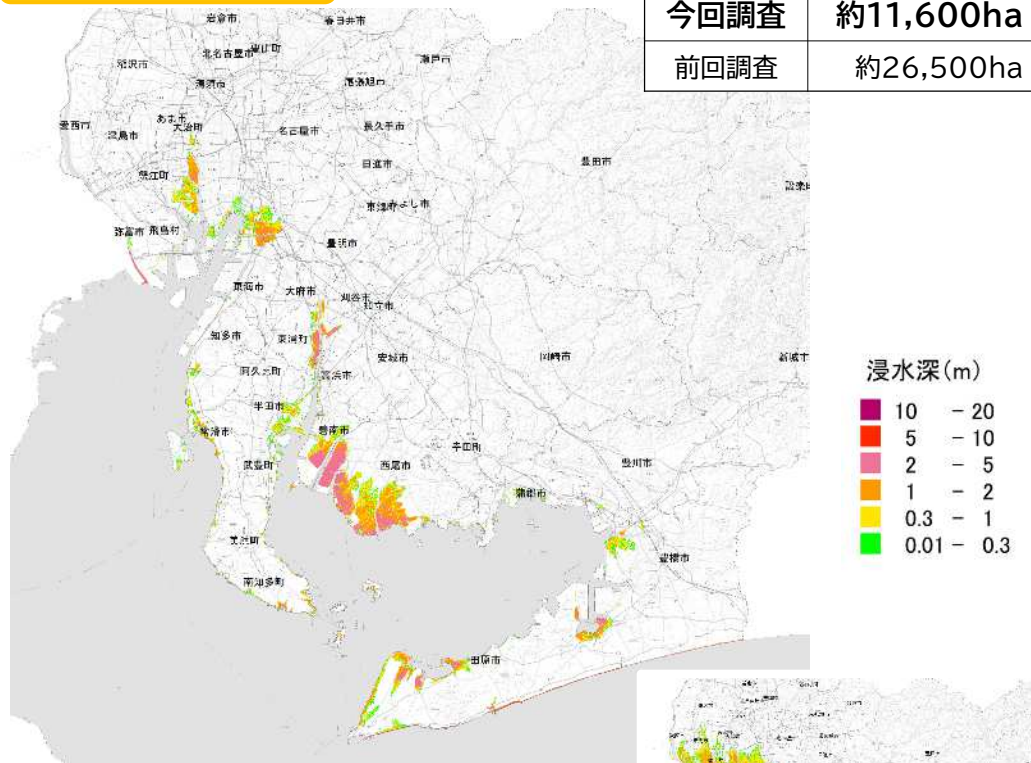


前回調査(2014公表)

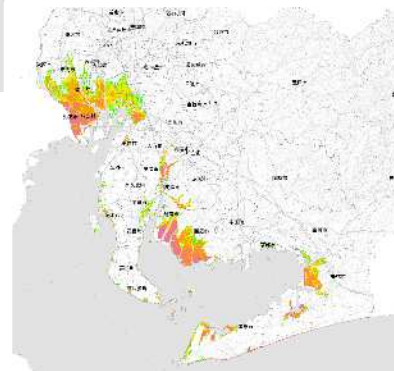
過去地震最大モデルの地震・津波による被害予測(ハザード)

- レーザ測量による標高データを収集し、地形データを更新するとともに、河川・海岸堤防や水門の整備状況等を堤防等のモデルに反映し、浸水・津波の予測を行った。
- 豊橋市で最短9分後に津波(30cm)が到達し、最大津波高は田原市で9.6mとなる。
- 堤防等の耐震対策が進んだ結果、浸水面積及び浸水深は前回調査より大きく減少している。

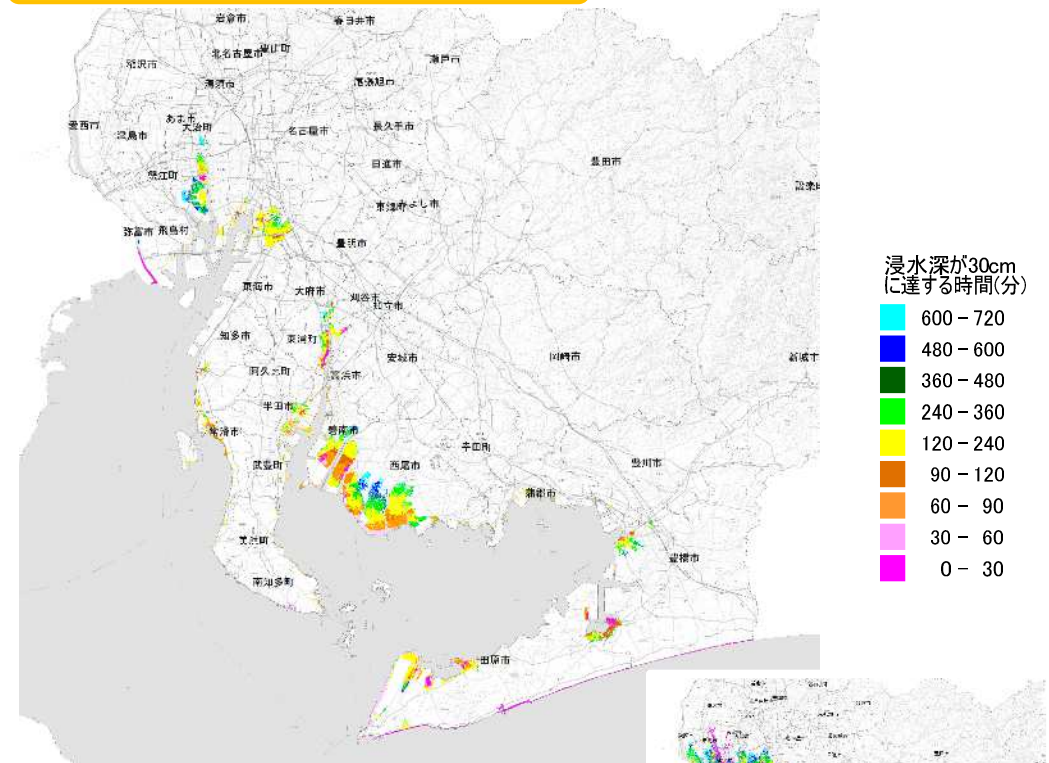
最大浸水深分布



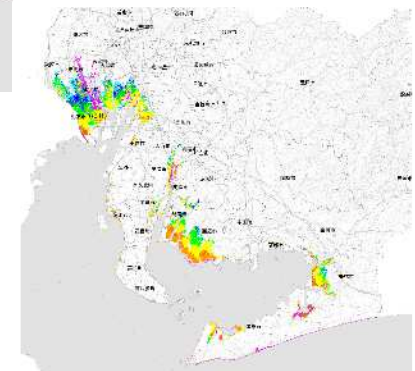
- ・西三河南部の平野部を中心に浸水が発生する。
- ・堤防等の耐震対策が進んだ結果、浸水面積及び浸水深が前回調査より大きく減少している。



浸水深が30cmに達する時間



- ・海岸部や一部の河川付近において、30分以内に浸水深が30cmに到達する地域がある。
- ・堤防等の耐震対策が進んだ結果、地震後すぐに河川からの浸水が始まる地域は大きく減少している。

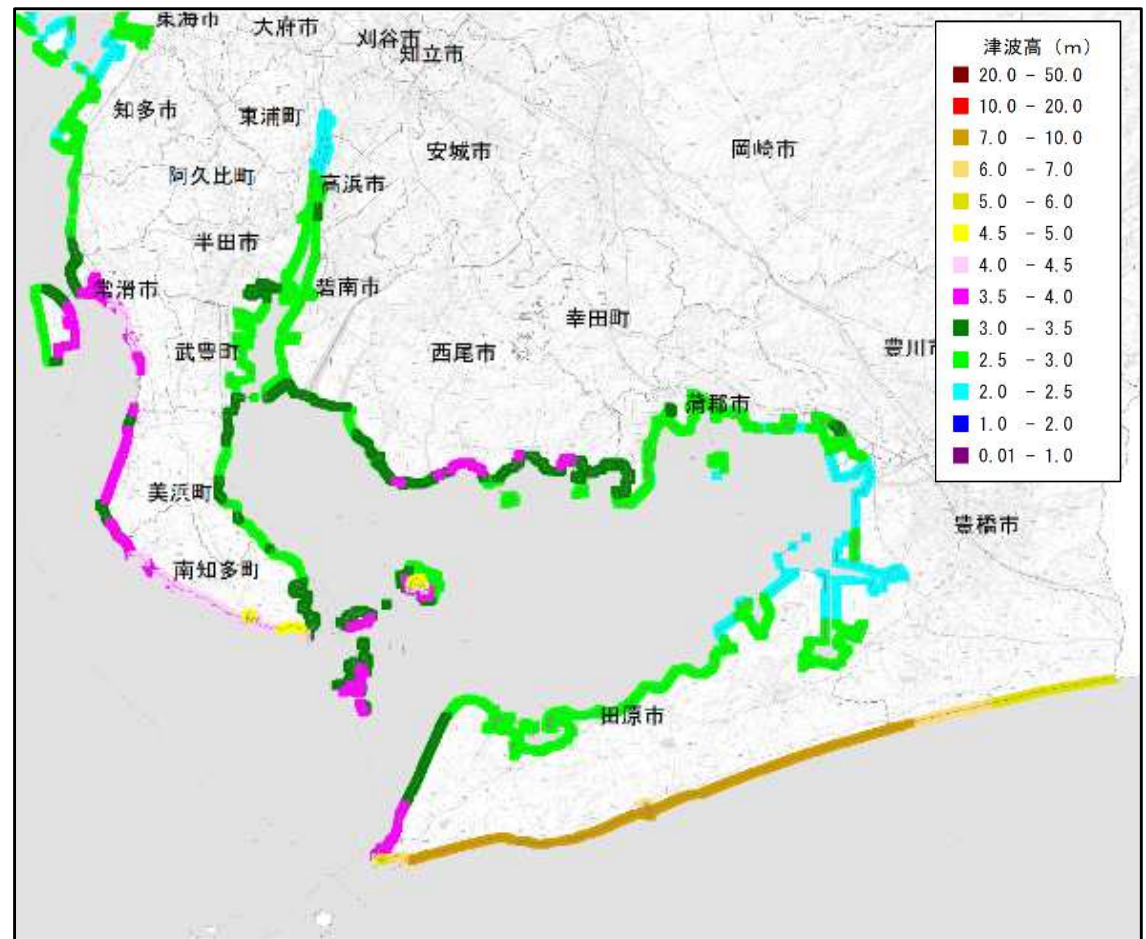


津波予測結果(津波高)

過去地震最大モデル



愛知県西部
(過去地震最大)



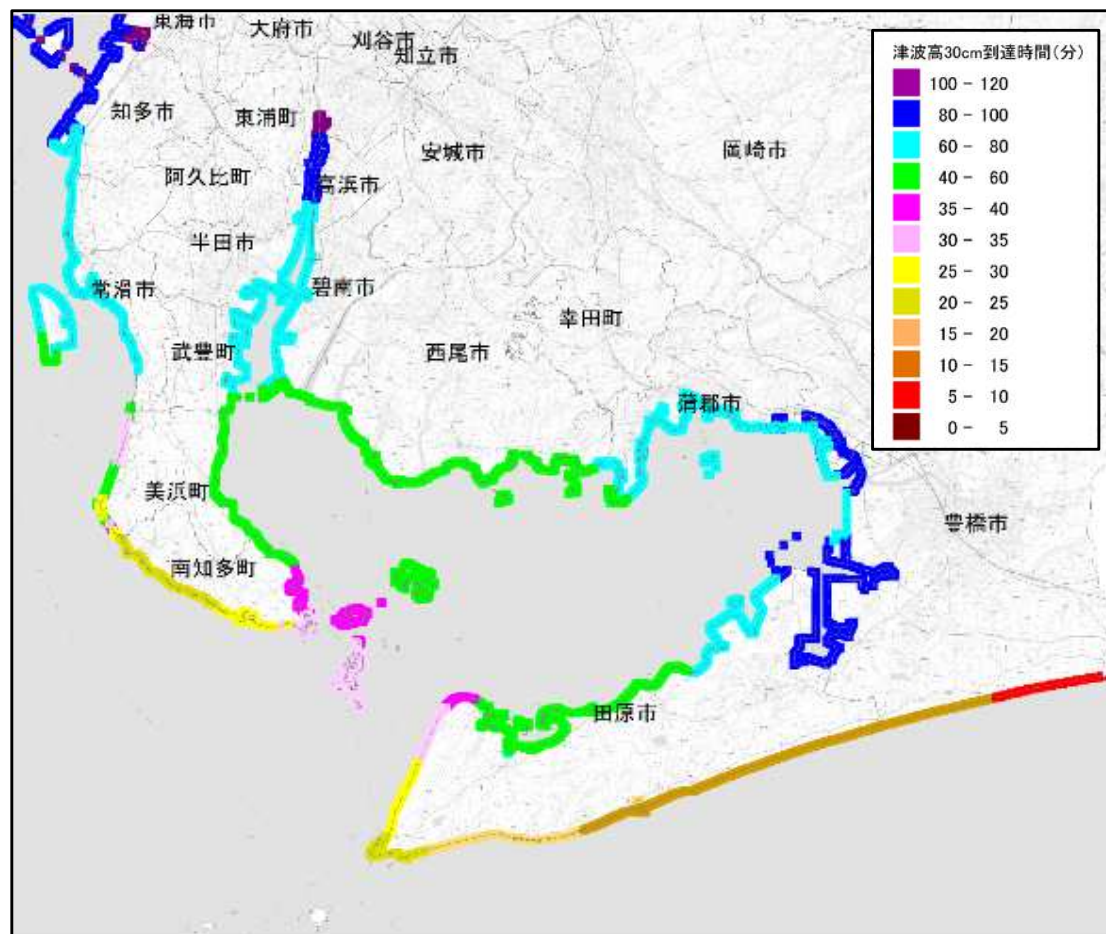
愛知県東部
(過去地震最大)

津波予測結果(津波到達時間)

- 過去地震最大モデル



愛知県西部
(過去地震最大)



愛知県東部
(過去地震最大)

過去地震最大モデルの地震・津波による被害予測(被害量)

- 建物データ、人口データ、堤防や水門の整備状況等、**前回調査以降の社会状況の変化や対策効果を反映するためのデータを収集・整理し、ゼロメートル地帯における浸水被害や津波避難等、本県の地域特性を踏まえた被害予測を行った。**
- 揺れによる全壊棟数は、耐震化や建替が進んだものの、強い揺れの範囲が拡大したため、前回調査より増加している。
- 浸水範囲が大きく減少したことにより、浸水・津波による全壊棟数や死者数は前回調査より大きく減少している。**

建物被害・人的被害

項 目		愛知県2026(今回調査)	愛知県2014(前回調査)
全壊・焼失棟数(冬・夕方)	揺れによる全壊	約50,000棟	約47,000棟
	液状化による全壊	約17,000棟	約16,000棟
	浸水・津波による全壊	約4,600棟	約8,400棟
	がけ崩れ等による全壊	約700棟	約600棟
	火災による焼失	約20,000棟	約23,000棟
	全壊・焼失棟数 計	約92,000棟	約94,000棟

死者数(冬・深夜)	建物倒壊等による死者	約2,400人	約2,400人
	浸水・津波による死者 [①]	約2,800人	約3,900人
	(うち自力脱出困難)	(約400人)	(約800人)
	(うち逃げ遅れ)	(約2,400人)	(約3,100人)
	浸水・津波による死者 [②]	約500人	約900人
	(うち自力脱出困難)	(約400人)	(約800人)
	(うち逃げ遅れ)	(約60人)	(約100人)
	がけ崩れ等による死者	約60人	約50人
	火災による死者	約50人	約90人
	死者数 計 [① (早期避難率低)]	約5,300人	約6,400人
	死者数 計 [② (早期避難率高+呼びかけ)]	約2,900人	約3,500人

注)端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

浸水・津波による死者数の算定条件 ① 早期避難者比率が低い場合として、避難の有無・避難開始時期を「すぐに避難する=20%」「避難はするがすぐには避難しない=50%」「切迫避難あるいは避難しない=30%」と設定
② 早期避難者比率が高く、避難の呼びかけが行われた場合として、「すぐに避難する=70%」「避難はするがすぐには避難しない=30%」「切迫避難あるいは避難しない=0%」と設定

過去地震最大モデルの地震・津波による被害予測(被害量)

- ライフライン機能支障、避難者数、帰宅困難者数等は、概ね前回調査と同程度の規模となっている。
- 備蓄の充実により、発災後3日間の食料不足は前回調査より減少**している。
- 直接的経済被害額(復旧に要する費用)は、物価上昇により再調達価額が上昇するなどし、被害額が増加している。

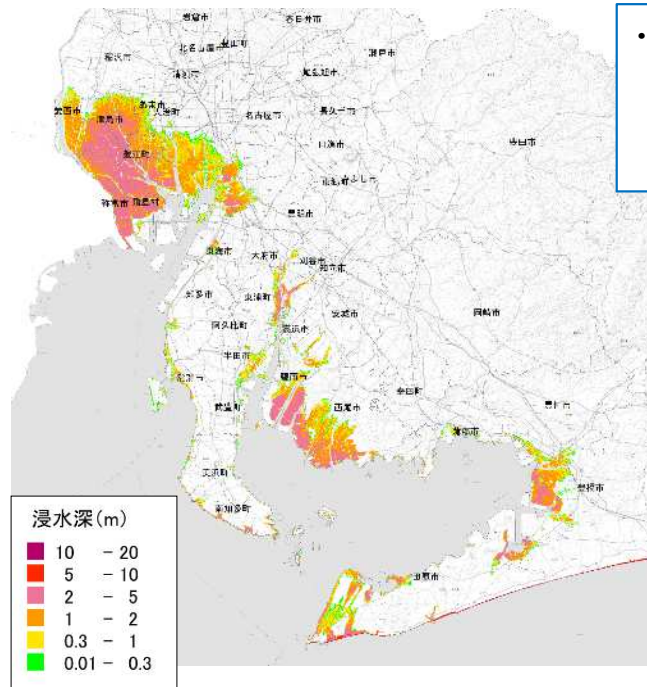
ライフライン被害・避難者・災害関連死等

項 目 (季節・時間帯:冬・夕方、帰宅困難者・医療機能のみ夏・昼)	愛知県2026(今回調査)	愛知県2014(前回調査)
上水道(断水人口)	最大約698万人(直後)	最大約702万人(直後)
下水道(機能支障人口)	最大約345万人(1日後)	最大約321万人(1日後)
電力(停電率)	最大約89%(直後)	最大約89%(直後)
通信【固定電話】(不通回線率)	最大約89%(直後)	最大約89%(直後)
通信【携帯電話】(停波基地局率)	最大約81%(1日後)	最大約81%(1日後)
ガス【都市ガス】(復旧対象戸数)	最大約19万戸(直後)	最大約17万戸(直後)
避難者(避難所+避難所外)	最大約158万人(1週間後)	最大約155万人(1週間後)
帰宅困難者	約91万人	約86万人～約93万人
災害関連死	約3,300人～8,400人	-
物資(飲料水不足)3日間	約8,400トン	約13,000トン
物資(食料不足)3日間	約79万食	約214万食
物資(トイレ不足)3日間	約386万回分	-
医療機能(入院対応力不足)	約6,200人	約6,300人
医療機能(外来対応力不足)	約6,000人	約5,100人
災害廃棄物等(災害廃棄物+津波堆積物)	約2,900万トン	約2,000万トン
直接的経済被害(復旧に要する費用)	約19.4兆円	約13.9兆円
間接的経済被害(生産額の低下)	約3.4兆円	約3.0兆円

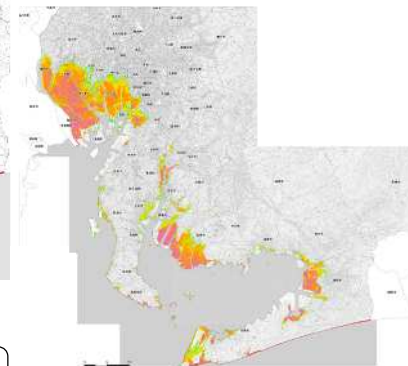
【補足】理論上最大モデルの地震・津波による被害予測(浸水・津波)

- 主として津波から「命を守る」という観点で、理論上最大モデルの地震・津波による被害予測を行った。
- 豊橋市で最短6分後に津波(30cm)が到達し、最大津波高は田原市で20.2mとなる。
- 揺れ、液状化による堤防等の被災を考慮した結果、ゼロメートル地帯を中心に非常に広い範囲が浸水する。また、堤防等の被災により、海岸部や河川付近で津波到達前から浸水が始まる地域が存在する。

最大浸水深分布



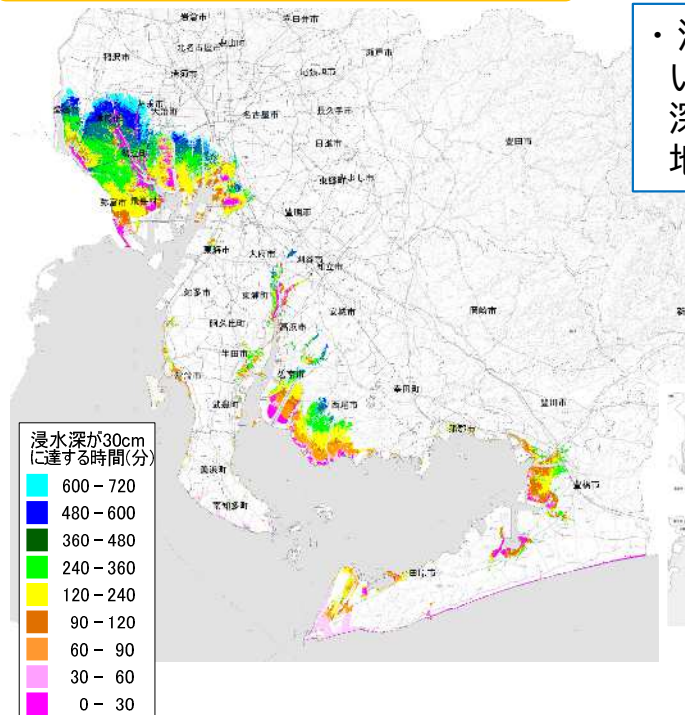
- ・尾張西部、西三河南部、東三河の平野部を中心に非常に広い範囲で浸水が発生する。



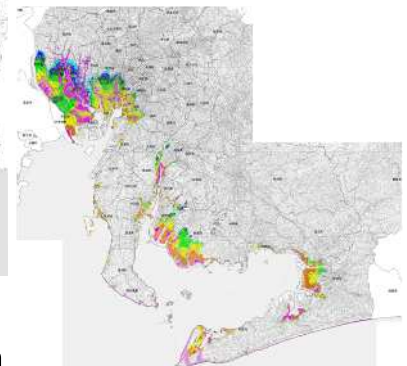
前回調査(2014公表)

〔5つの津波ケースのうち、県全体での死者数が最大となる津波ケース①の結果を掲載している。〕

浸水深が30cmに達する時間



- ・海岸部や河川付近において、30分以内に浸水深が30cmに到達する地域が広がっている。



前回調査(2014公表)

〔5つの津波ケースのうち、県全体での死者数が最大となる津波ケース①の結果を掲載している。〕

項目 (季節・時間帯:冬・深夜)	愛知県2026(今回調査)	愛知県2014(前回調査)
浸水・津波による死者数[①]	約14,000人	約13,000人
(うち自力脱出困難)	(約4,100人)	(約5,500人)
(うち逃げ遅れ)	(約9,900人)	(約7,100人)

注)端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

項目 (季節・時間帯:冬・深夜)	愛知県2026(今回調査)	愛知県2014(前回調査)
浸水・津波による死者数[②]	約5,200人	約7,600人
(うち自力脱出困難)	(約4,100人)	(約5,500人)
(うち逃げ遅れ)	(約1,100人)	(約2,100人)

浸水・津波による死者数の算定条件

① 早期避難者比率が低い場合として、避難の有無・避難開始時期を「すぐに避難する=20%」「避難はするがすぐには避難しない=50%」「切迫避難あるいは避難しない=30%」と設定

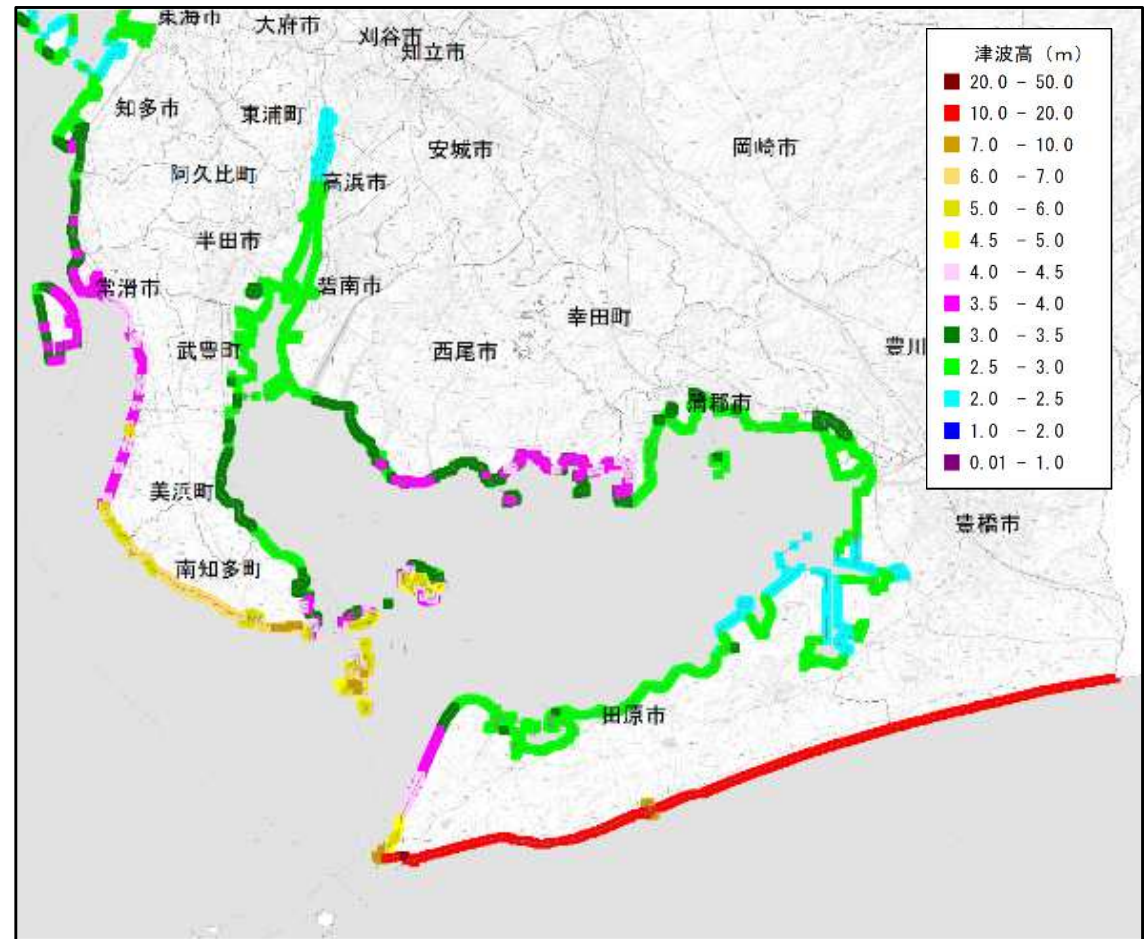
② 早期避難者比率が高く、避難の呼びかけが行われた場合として、「すぐに避難する=70%」「避難はするがすぐには避難しない=30%」「切迫避難あるいは避難しない=0%」と設定

津波予測結果(津波高)

- 理論上最大モデル



愛知県西部
(理論上最大)



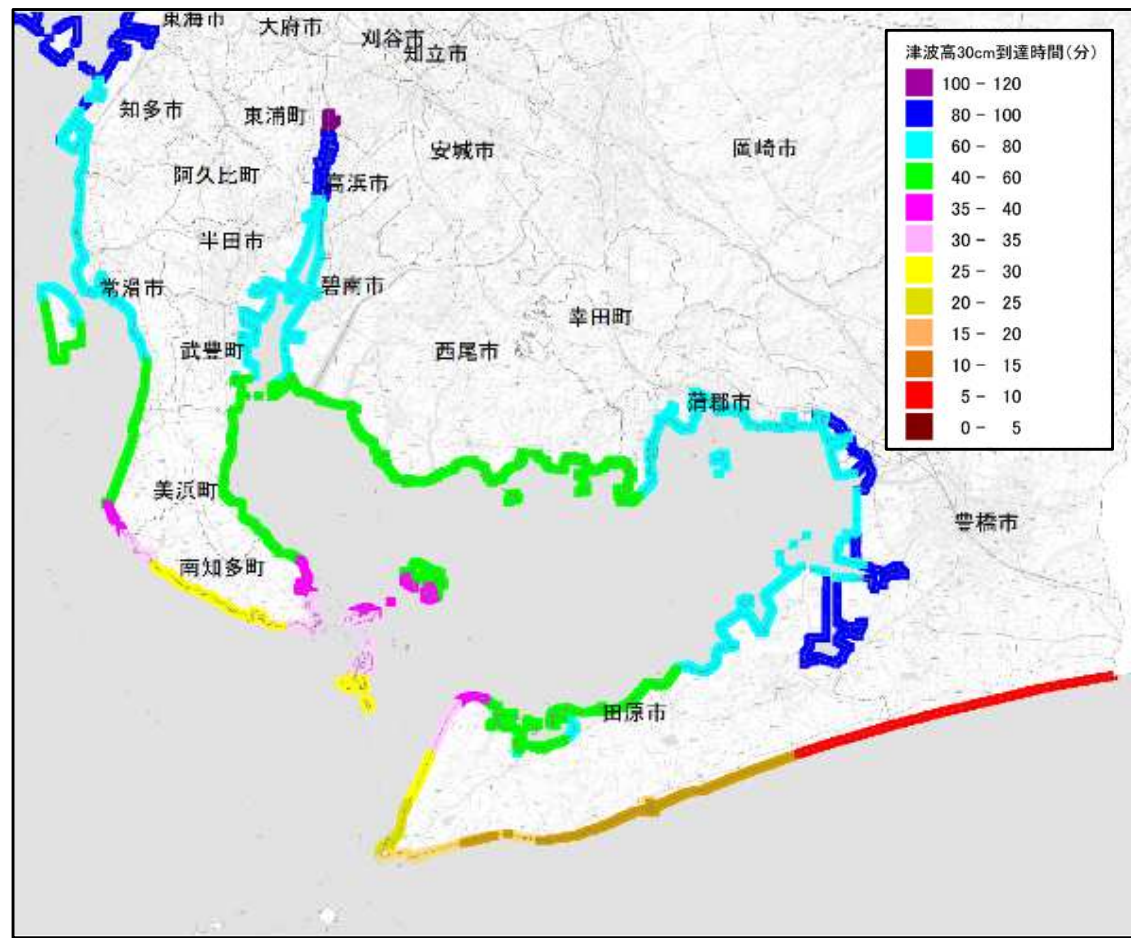
愛知県東部
(理論上最大)

津波予測結果(津波到達時間)

- 理論上最大モデル



愛知県西部
(理論上最大)



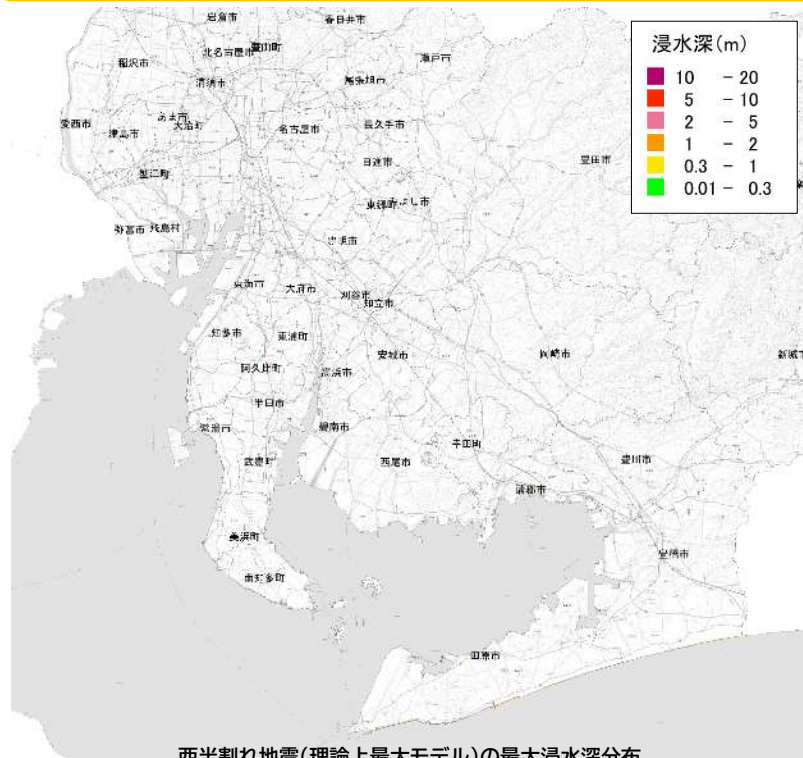
愛知県東部
(理論上最大)

【参考】時間差をにおいて発生する地震・津波による被害予測

- 過去に発生した事例が知られている、南海トラフで時間差をにおいて発生する地震・津波による被害予測を行った。
- 先発地震として西半割れ地震が発生した場合、県内の浸水はわずかである。津波警報や南海トラフ地震臨時情報により早期避難意識が高まり、適切に事前避難が行われれば、後発地震として東半割れ地震が発生した場合の被害を大きく減らすことができる(東半割れ地震が単独で発生した場合よりも被害が大きく減少)。

時間差をにおいて発生する地震・津波による被害予測(浸水・津波)

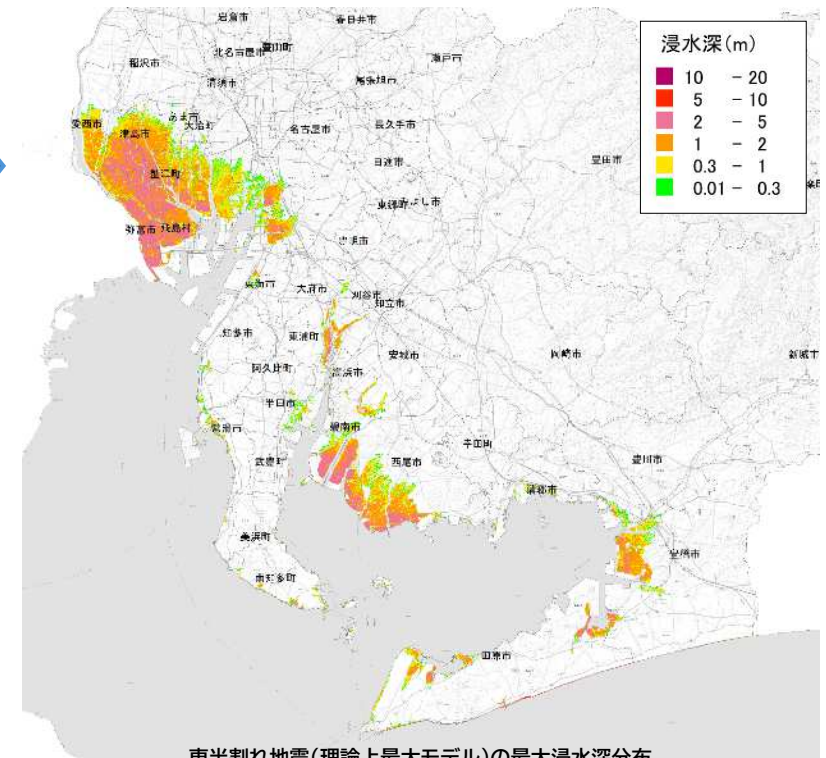
〔津波の被害が大きい理論上最大モデルの半割れ地震の結果を掲載している。〕



西半割れ地震(理論上最大モデル)の最大浸水深分布

西半割れ地震の
発生後、数日以内に
東半割れ地震が発生

- ・西半割れ地震では、県内の浸水はわずかである。
- ・東半割れ地震では、尾張西部、西三河南部、東三河の平野部を中心に非常に広い範囲で浸水が発生する。



東半割れ地震(理論上最大モデル)の最大浸水深分布

項目 (季節・時間帯: 冬・深夜)	先発地震(西半割れ地震)	後発地震(東半割れ地震)		東半割れ地震単独(参考)
	①早期避難率低	②早期避難意識が高まり、 避難の呼びかけが行われた場合	左に加え、住民の事前避難※が行われた場合	①早期避難率低
浸水・津波による死者数	*	約3,700人	約2,300人	約5,900人
(うち自力脱出困難)	(*)	(約3,000人)	(約2,300人)	(約3,000人)

*: 被害わずか ※浸水深が30cmに到達する時間が30分以内の地域の住民があらかじめ避難

浸水・津波による死者数の算定条件
 ① 早期避難者比率が低い場合として、避難の有無・避難開始時期を「すぐに避難する = 20%」「避難はするがすぐには避難しない = 50%」「切迫避難あるいは避難しない = 30%」と設定
 ② 早期避難者比率が高く、避難の呼びかけが行われた場合として、「すぐに避難する = 70%」「避難はするがすぐには避難しない = 30%」「切迫避難あるいは避難しない = 0%」と設定

市町村別の被害(過去地震最大モデル)

市町村名	全壊・焼失棟数【棟】						死者数【人】				
	揺れ	液状化	浸水・津波	がけ崩れ等	火災	合計	建物倒壊等	浸水・津波	がけ崩れ等	火災	合計
名古屋市	約6,800	約3,000	約2,000	*	約3,500	約15,000	約300	約600	*	*	約900
豊橋市	約6,600	約200	約30	約10	約3,000	約9,800	約300	約50	*	約10	約400
岡崎市	約2,200	約900	*	約70	約1,500	約4,700	約100	*	約10	*	約100
一宮市	約100	約3,500	*	*	約40	約3,600	*	*	*	*	*
瀬戸市	約100	*	*	約10	*	約100	*	*	*	*	*
半田市	約1,100	約10	約30	約10	約700	約1,900	約50	約20	*	*	約80
春日井市	約100	*	*	*	約50	約100	*	*	*	*	*
豊川市	約2,000	*	*	約20	約900	約2,900	約90	*	*	*	約90
津島市	約200	約1,200	*	*	約30	約1,400	約10	*	*	*	約10
碧南市	約2,800	約30	約200	*	約1,200	約4,200	約100	約200	*	*	約300
刈谷市	約900	*	約30	*	約400	約1,300	約30	*	*	*	約40
豊田市	約1,200	約50	*	約100	約20	約1,400	約30	*	約10	*	約50
安城市	約1,700	約60	*	*	約400	約2,200	約80	*	*	*	約80
西尾市	約7,200	約600	約1,300	約20	約3,100	約12,000	約400	約900	*	約40	約1,300
蒲郡市	約1,200	約30	約10	約40	約600	約1,800	約70	約20	*	*	約90
犬山市	約10	*	*	*	*	約10	*	*	*	*	*
常滑市	約800	約10	約200	約10	約500	約1,500	約50	約100	*	*	約200
江南市	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
小牧市	約40	*	*	*	*	約40	*	*	*	*	*
稲沢市	約200	約2,800	*	*	約10	約3,000	約10	*	*	*	約10
新城市	約200	*	*	約70	*	約200	約10	*	約10	*	約10
東海市	約1,000	約20	約100	約10	約700	約1,800	約40	約30	*	*	約70
大府市	約400	*	*	*	約300	約700	約30	*	*	*	約30
知多市	約600	約10	*	約20	約300	約1,000	約30	約10	*	*	約30
知立市	約300	*	*	*	約200	約500	約10	*	*	*	約10
尾張旭市	約70	*	*	*	*	約80	*	*	*	*	*
高浜市	約500	*	*	*	約300	約800	約20	*	*	*	約20

市町村名	全壊・焼失棟数【棟】						死者数【人】				
	揺れ	液状化	浸水・津波	がけ崩れ等	火災	合計	建物倒壊等	浸水・津波	がけ崩れ等	火災	合計
岩倉市	約20	約10	*	*	*	約30	*	*	*	*	*
豊明市	約200	*	*	*	約10	約200	約10	*	*	*	約10
日進市	約200	*	*	*	約10	約200	*	*	*	*	*
田原市	約4,800	約10	約200	約50	約1,000	約6,000	約300	約80	*	約10	約300
愛西市	約300	約1,800	*	*	*	約2,200	約10	*	*	*	約10
清須市	約200	約600	*	*	*	約800	約10	*	*	*	約10
北名古屋市	約80	約300	*	*	*	約300	*	*	*	*	*
弥富市	約300	約700	*	*	約30	約1,100	約10	*	*	*	約10
みよし市	約200	*	*	*	*	約200	約10	*	*	*	約10
あま市	約300	約1,100	*	*	約10	約1,400	約10	*	*	*	約10
長久手市	約60	*	*	*	*	約60	*	*	*	*	*
東郷町	約100	*	*	*	*	約100	*	*	*	*	*
豊山町	約10	*	*	*	*	約10	*	*	*	*	*
大口町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
扶桑町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
大治町	約90	約200	*	*	*	約300	*	約20	*	*	約30
蟹江町	約300	約200	*	*	約10	約500	約10	*	*	*	約10
飛島村	約200	約50	*	*	*	約200	*	*	*	*	*
阿久比町	約300	*	*	約10	約90	約300	約10	*	*	*	約10
東浦町	約600	約10	約100	*	約600	約1,400	約30	約20	*	*	約50
南知多町	約1,400	約20	約400	約100	約200	約2,000	約90	約700	約10	*	約800
美浜町	約900	約10	約30	約20	約100	約1,100	約50	約20	*	*	約80
武豊町	約400	約10	約10	*	約200	約700	約20	*	*	*	約30
幸田町	約500	*	*	約20	約50	約500	約20	*	*	*	約30
設楽町	約20	*	*	約10	*	約30	*	*	*	*	*
東栄町	約10	*	*	約20	*	約40	*	*	*	*	*
豊根村	*	*	*	約10	*	約10	*	*	*	*	*

※:被害わずか 注)県全体の被害が最大となるケース(全壊・焼失棟数:冬・夕方、死者数:冬・深夜、早期避難率低)の市町村別の内訳を示したものであり、市町村毎の最大値は別のケースとなる場合がある。

市町村別の被害(理論上最大モデル)

市町村名	全壊・焼失棟数【棟】						死者数【人】				
	揺れ	液状化	浸水・津波	がけ崩れ等	火災	合計	建物倒壊等	浸水・津波	がけ崩れ等	火災	合計
名古屋市	約34,000	約3,000	約7,900	約10	約17,000	約62,000	約1,900	約4,200	*	約100	約6,200
豊橋市	約31,000	約200	約400	約30	約13,000	約45,000	約1,500	約500	*	約200	約2,300
岡崎市	約10,000	約900	*	約100	約8,400	約20,000	約500	*	約10	約100	約600
一宮市	約2,100	約3,500	*	*	約1,700	約7,300	約90	*	*	*	約90
瀬戸市	約100	*	*	約10	*	約200	約10	*	*	*	約10
半田市	約8,700	約10	約40	約20	約5,600	約14,000	約500	約100	*	約100	約700
春日井市	約300	*	*	*	約200	約500	約10	*	*	*	約10
豊川市	約11,000	*	約10	約20	約5,200	約16,000	約600	約30	*	約80	約700
津島市	約2,200	約1,200	約3,600	*	約900	約8,000	約100	約1,500	*	*	約1,700
碧南市	約9,000	約30	約200	*	約4,400	約14,000	約400	約300	*	約70	約800
刈谷市	約5,400	*	約100	*	約3,100	約8,600	約200	約20	*	約40	約300
豊田市	約3,200	約50	*	約100	約200	約3,700	約100	*	約10	*	約200
安城市	約9,900	約60	約10	*	約2,700	約13,000	約500	*	*	約30	約500
西尾市	約18,000	約600	約1,000	約20	約6,300	約26,000	約1,000	約2,100	*	約100	約3,100
蒲郡市	約4,100	約30	約10	約50	約2,300	約6,400	約200	約100	*	約30	約400
犬山市	約10	*	*	*	*	約10	*	*	*	*	*
常滑市	約5,100	約10	約60	約20	約2,300	約7,500	約300	約200	*	約40	約600
江南市	約10	*	*	*	*	約10	*	*	*	*	*
小牧市	約80	*	*	*	約20	約100	*	*	*	*	*
稲沢市	約2,700	約2,800	*	*	約1,200	約6,700	約100	*	*	*	約100
新城市	約3,000	*	*	約100	約90	約3,200	約200	*	約10	*	約200
東海市	約3,200	約20	約200	約10	約2,100	約5,500	約200	約30	*	約30	約200
大府市	約1,700	*	*	*	約900	約2,500	約100	*	*	*	約100
知多市	約4,200	約10	*	約20	約2,400	約6,600	約200	約20	*	約30	約300
知立市	約2,200	*	*	*	約1,400	約3,600	約100	*	*	約20	約100
尾張旭市	約200	*	*	*	約10	約200	約10	*	*	*	約10
高浜市	約2,400	*	約10	*	約2,000	約4,400	約100	約30	*	約30	約200

市町村名	全壊・焼失棟数【棟】						死者数【人】				
	揺れ	液状化	浸水・津波	がけ崩れ等	火災	合計	建物倒壊等	浸水・津波	がけ崩れ等	火災	合計
岩倉市	約200	約10	*	*	*	約200	約10	*	*	*	約10
豊明市	約1,000	*	*	*	約400	約1,400	約40	*	*	*	約40
日進市	約600	*	*	*	約200	約700	約20	*	*	*	約20
田原市	約9,300	約10	約50	約50	約1,700	約11,000	約500	約700	*	約40	約1,200
愛西市	約3,700	約1,800	約4,600	*	約700	約11,000	約200	約900	*	*	約1,100
清須市	約1,600	約600	*	*	約1,200	約3,400	約80	*	*	*	約80
北名古屋市	約500	約300	*	*	約400	約1,100	約20	*	*	*	約20
弥富市	約2,200	約700	約6,200	*	約200	約9,400	約100	約1,100	*	*	約1,300
みよし市	約700	*	*	*	約80	約800	約30	*	*	*	約30
あま市	約2,900	約1,100	約300	*	約1,300	約5,600	約100	約200	*	約10	約300
長久手市	約200	*	*	*	約40	約200	約10	*	*	*	約10
東郷町	約400	*	*	*	約200	約600	約20	*	*	*	約20
豊山町	約50	*	*	*	約50	約100	*	*	*	*	*
大口町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
扶桑町	約10	*	*	*	*	約10	*	*	*	*	*
大治町	約1,000	約200	*	*	約300	約1,500	約50	約10	*	*	約60
蟹江町	約1,600	約200	約2,900	*	約300	約5,000	約80	約600	*	*	約700
飛島村	約500	約50	約700	*	*	約1,300	約20	約100	*	*	約100
阿久比町	約1,700	*	*	約10	約700	約2,500	約90	*	*	約10	約100
東浦町	約2,100	約10	約50	*	約2,700	約4,900	約100	約40	*	約40	約200
南知多町	約5,500	約20	約60	約100	約900	約6,600	約300	約1,000	約10	約10	約1,400
美浜町	約4,700	約10	約10	約20	約900	約5,600	約300	約80	*	約20	約400
武豊町	約5,200	約10	*	*	約2,000	約7,200	約300	約10	*	約40	約300
幸田町	約1,900	*	*	約30	約300	約2,300	約100	*	*	*	約100
設楽町	約300	*	*	約20	*	約300	約20	*	*	*	約20
東栄町	約200	*	*	約40	*	約200	約10	*	*	*	約10
豊根村	約10	*	*	約20	*	約30	*	*	*	*	*

*:被害わずか 注)県全体の被害が最大となるケース(全壊・焼失棟数:陸側、津波ケース⑦、冬・夕方、死者数:陸側、津波ケース①、冬・深夜、早期避難率低)の市町村別の内訳を示したものであり、市町村毎の最大値は別のケースとなる場合がある。

防災対策の効果

- 各種の防災対策を推進した場合に見込まれる効果を試算した。
- 建物の耐震化や津波からの早期避難など、個人でも取り組める対策により、被害を大幅に軽減できると見込まれる。

防災対策の効果の試算結果

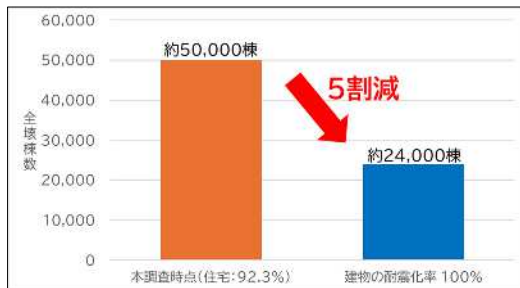
（下記の防災対策の効果を同時に見込んだ場合の
効果の試算結果を掲載している。）

効果の試算に際して見込んだ防災対策の内容

- ・ 建物の耐震化率100%の達成
- ・ 家具等の転倒・落下防止対策実施率100%の達成
- ・ 感震ブレーカー設置率100%の達成
- ・ 全員が発災後すぐに避難開始

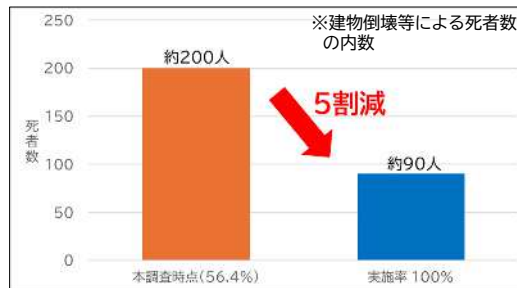
建物の耐震化の効果

揺れによる全壊棟数(過去地震最大モデル)



家具等の転倒・落下防止対策の効果

屋内転倒物等による死者数(過去地震最大モデル)



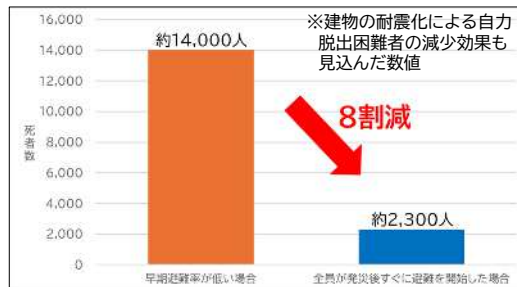
感震ブレーカー設置の効果

火災による焼失棟数(過去地震最大モデル)



津波避難の迅速化の効果

浸水・津波による死者数(理論上最大モデル)



建物被害(過去地震最大、冬・夕方)	対策前	対策後
揺れによる全壊棟数	約50,000棟	約24,000棟 (約5割減)
火災による焼失棟数	約20,000棟	約5,100棟 (約7割減)

人的被害(過去地震最大、冬・深夜)	対策前	対策後
建物倒壊等による死者数	約2,400人	約800人 (約7割減)
火災による死者数	約50人	約30人 (約4割減)
浸水・津波による死者数	約2,800人[①]	約100人[②'] (約9割減)
うち自力脱出困難	約400人	約90人 (約8割減)
うち逃げ遅れ	約2,400人	約50人 (約9割減)
死者数 計	約5,300人	約1,000人 (約8割減)

人的被害(理論上最大、津波ケース①、冬・深夜)	対策前	対策後
浸水・津波による死者数	約14,000人[①]	約2,300人[②'] (約8割減)
うち自力脱出困難	約4,100人	約1,300人 (約7割減)
うち逃げ遅れ	約9,900人	約1,000人 (約9割減)

経済被害(過去地震最大、冬・夕方)	対策前	対策後
直接的経済被害額	約19.4兆円	約15.9兆円 (約2割減)

注)端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

浸水・津波による死者数の算定条件 ① 早期避難者比率が低い場合として、避難の有無・避難開始時期を「すぐに避難する=20%」「避難はするがすぐには避難しない=50%」「切迫避難あるいは避難しない=30%」と設定
②' 全員が発災後すぐに避難開始する場合として、「すぐに避難する=100%」と設定

被害予測調査結果の閲覧

愛知県 AICHI PREFECTURE

トップページ 更新履歴 利用規約 このページの使い方

愛知県 防災学習システム

防災マップを見る

お住まいの地域周辺の防災マップを見ることが出来ます。

建物倒壊シミュレータ

東海・東南海地震が起こったときの、自宅の様子をシミュレーションすることが出来ます。

地域防災の広場

地域の防災情報や安全情報について、みんなで書き込むことのできるマップです。

ビデオ教材で学ぶ

防災に関する各種ビデオコンテンツを閲覧できます。

防災イベントカレンダー

愛知県内の防災に関するイベントカレンダーを閲覧することができます。

是非アクセス
してみてください

<https://www.quake-learning.pref.aichi.jp/>

全体の構成

1. 地震はなぜ起こるのか
2. この地域の地震の歴史
3. 南海トラフ地震の被害予測調査
4. 南海トラフ地震に備えた取組

南海トラフ地震に備えるために

【行政】

公助

3つの連携が大事！

自助

【個人・家族】

共助

【地域】

南海トラフ地震に備えるために

公助

あいち防災アクションプラン

- 位置付け

愛知県地域強靱化計画における県の具体的なアクション項目を整理(県の行動計画)

- 実施期間

2025年度～2029年度



参考 愛知県地域強靱化計画(2025年3月改定)

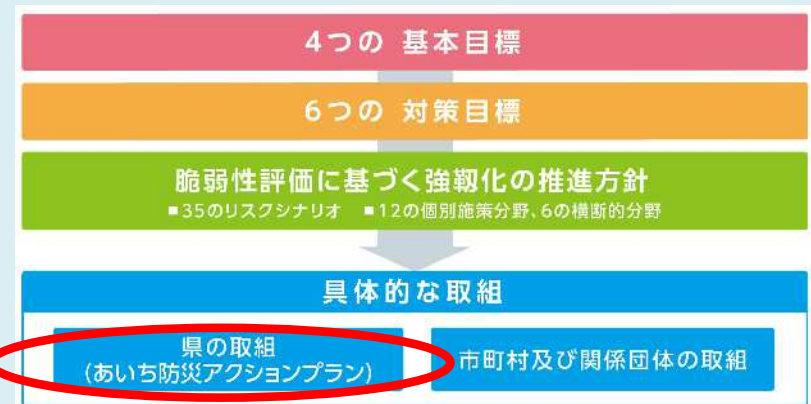
策定趣旨:

愛知県の強靱化に関する施策を、国や県内市町村、民間事業者などの関係者相互の連携の下、総合的、計画的に推進する指針として策定

基本目標:

- ①県民の生命を最大限守る
- ②地域及び社会の重要な機能を維持する
- ③県民の財産及び公共施設、愛知県を始め中部圏全体の産業・経済活動に係る被害をできる限り軽減する
- ④迅速な復旧復興を可能とする

計画の構成:



アクションプランの施策体系

アクション項目数は300項目

対策の柱 1 直接死を防ぐ

地震動対策、火災対策、津波対策など、直接死を防ぐための取組を実施

- 住宅の耐震化の促進
- 河川・海岸堤防の耐震化等の推進
- 土砂災害危険箇所の施設整備の推進
- 災害に強い街づくりを支える土地区画整理事業の促進
- 流域治水に基づく河川改修の推進



対策の柱 2 迅速な人命救助を実施するとともに関連死を防止する

救助・救急活動の体制整備、医療・福祉機能維持、避難生活環境の確保など、救助・救急、医療活動及び避難生活環境の確保等により関連死を最大限防ぐための取組を実施

- 愛知県基幹的広域防災拠点の整備
- ゼロメートル地帯における広域的な防災活動拠点の整備
- 災害拠点病院等の機能の強化
- 市町村避難所の円滑な運営等に関する支援
- 避難所外避難者への対策の促進
- 食糧及び生活必需品の備蓄計画に基づく物資の調達体制の整備 等
- 帰宅困難者等支援対策の推進



対策の柱 3 必要不可欠な行政機能を確保する

警察機能の維持、県・市町村の行政機能の維持など、災害時に必要不可欠な行政機能を確保するための取組を実施

- 警察施設の非常用電源設備の確保
- 愛知県庁BCPの実効性の確保
- 次世代高度情報通信ネットワークの整備
- 衛星インターネット等の活用



アクションプランの施策体系

アクション項目数は300項目

対策の柱 4 経済活動を機能不全に陥らせない

企業活動の継続、農業・漁業の維持など、
「産業首都あいち」の経済活動を機能不全に陥らせないための取組を実施

- 中小企業のBCP策定の促進
- 石油コンビナート等防災訓練の実施
- 漁港BCPに基づく事前対策及び漁港BCPの充実
- 風水害対策のための森林整備の推進



対策の柱 5 社会インフラの被害軽減と早期復旧を図る

情報の収集・伝達、電力や燃料の供給停止対策、上下水道施設の機能維持など、
社会インフラの被害軽減と早期復旧を図るための取組を実施

- 多様なメディアを活用した情報伝達体制の構築
- 重要施設への電力の臨時供給のための体制整備
- 災害応急活動に従事する車両等への石油燃料の優先給油の推進
- 上下水道施設の一体的な耐震化の促進
- 緊急輸送道路等の整備の推進



対策の柱 6 迅速かつ強靱な姿での復興を目指す

復興方針、復興体制の整備、災害対応・復旧復興を支える人材等の確保、災害廃棄物対策、生活再建
など、本県が被災した場合に、迅速かつ強靱な姿での復興を目指すための取組を実施

- 事前復興まちづくりの取組の促進
- 防災人材のネットワーク化の推進
- 災害廃棄物処理体制の構築
- 応急仮設住宅建設に係る体制の整備
- 地盤沈下防止対策の推進
- 文化財の耐震化等の促進



対策の柱 7 人材育成・連携・新技術の活用によって地域防災力を高める

リスクコミュニケーション、人材育成、産学官民・広域連携、デジタル活用など、
地域防災力を高める取組を実施

- 水素なまず号(燃料電池地震体験車)等による啓発の実施
- 災害マネジメント総括支援員の育成による体制強化
- インフラの長寿命化計画等に基づく老朽化対策の推進
- 産学官連携による防災人材の育成
- 災害対策用ドローンを活用した防災対策の推進
- 国、県、市町村、防災関係機関、県民の連携による防災訓練の実施

愛知県地域強靱化計画
「レジリエンス」
イメージキャラクター

南海トラフ地震に備えた取組

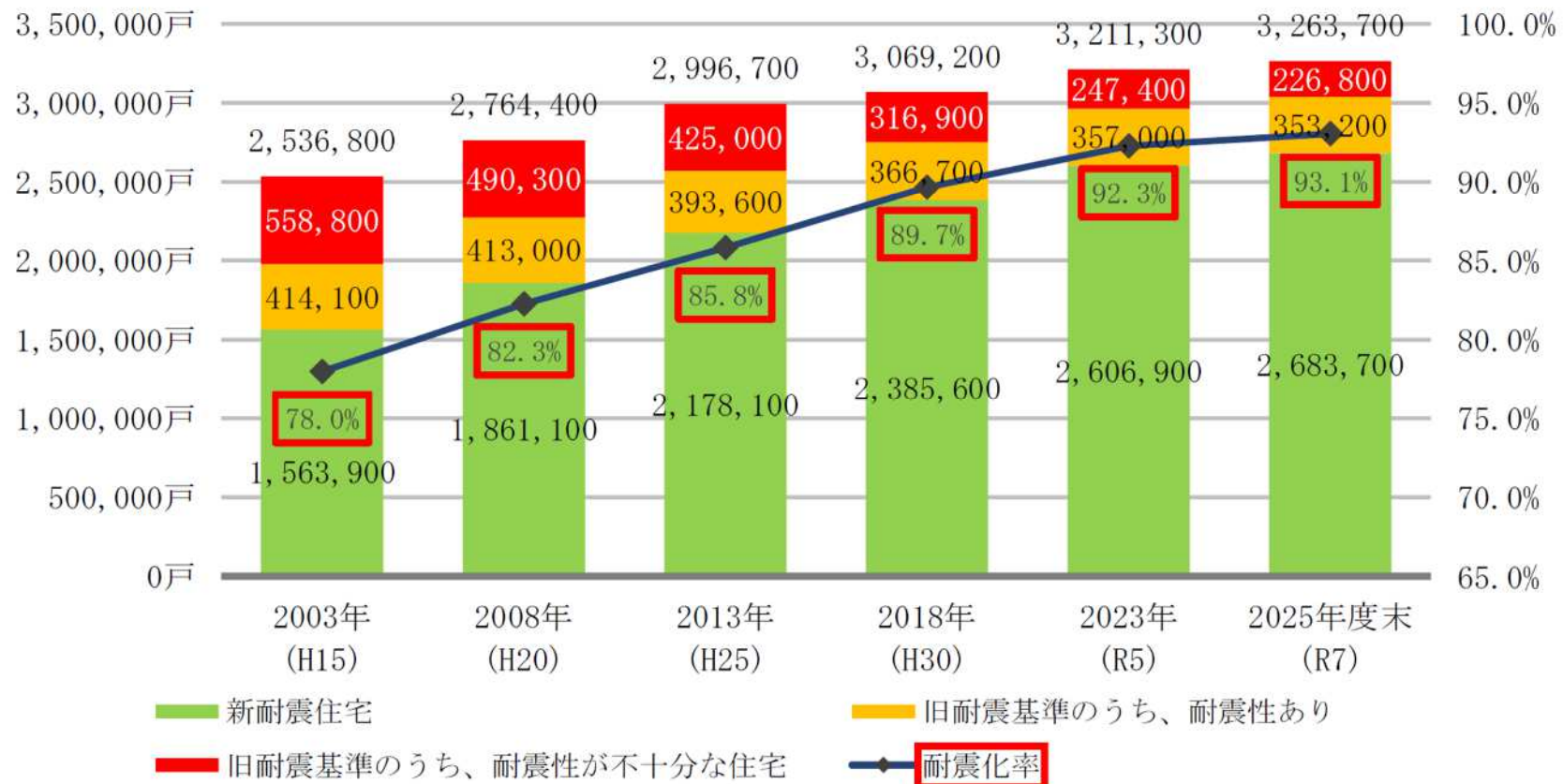
～住宅の耐震化の促進～

愛知県では、「愛知県建築物耐震改修促進計画～あいち建築減災プラン2035～」を策定し、住宅や建築物の耐震化を進めています。

◆住宅数と耐震化率の推移

あいち防災アクションプランの進捗管理指標

住宅の耐震化率 91.2%(2020)→95%【2025】

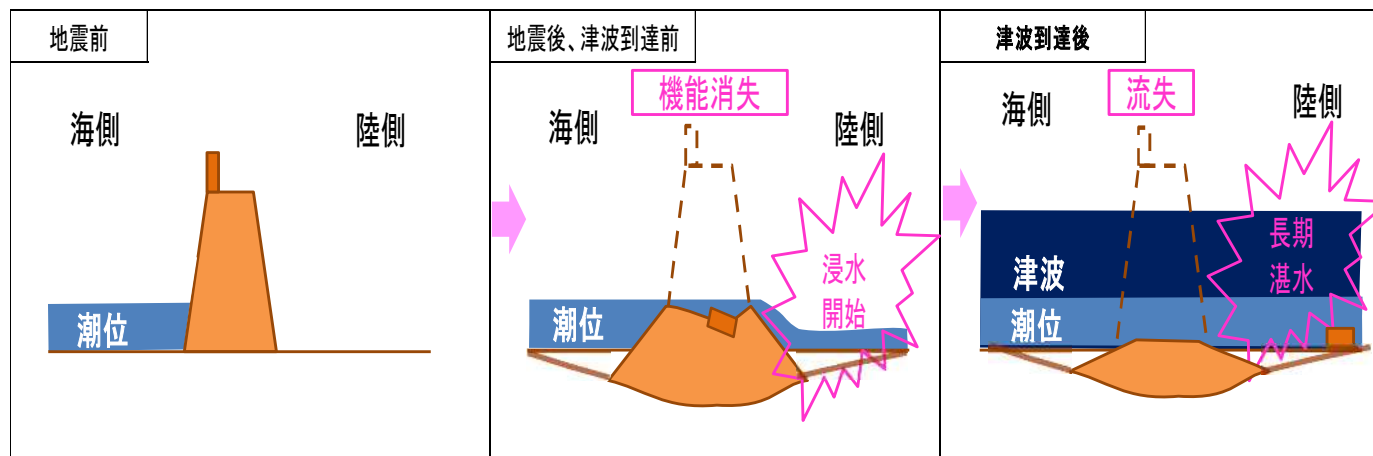


南海トラフ地震に備えた取組 ～河川・海岸堤防の耐震化等の推進～

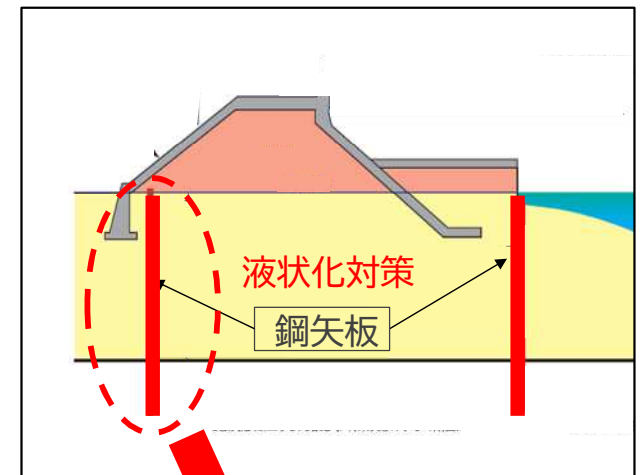
- ゼロメートル地帯などでは、地震による液状化により河川・海岸堤防が沈下し、津波等により浸水することを防ぐため、堤防の耐震化を推進する。
- 特に、地震直後に浸水が始まり、被害が甚大となる箇所から優先的に進める。

<施設で防護するクラスの津波の対策イメージ>

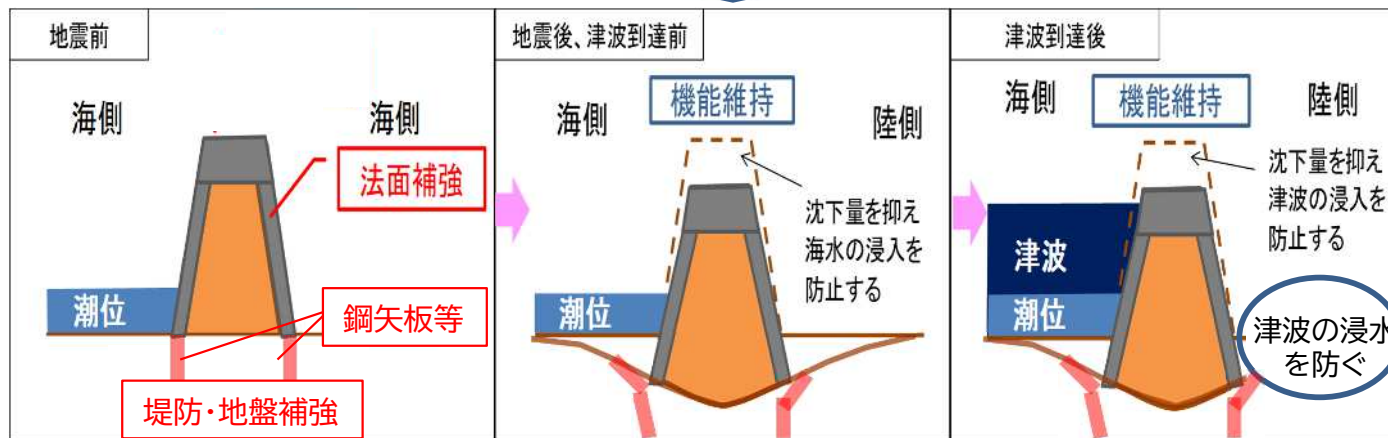
✓対策なしの堤防



<堤防の対策工法例(河川堤防)>



✓対策ありの堤防



鋼矢板打設状況



天白川(名古屋市)

南海トラフ地震に備えた取組 ～愛知県基幹的広域防災拠点の整備～

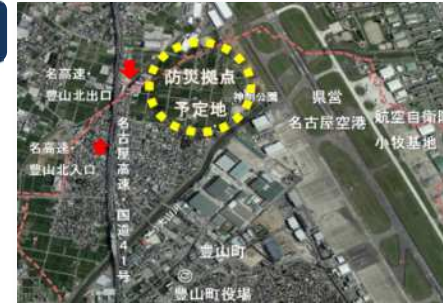
- 空港と高速道路網の二つに直結する「名古屋空港・北西部」に、全国から人員・物資の支援を受入れ、県内全域に供給する「愛知県基幹的広域防災拠点」を整備
- 大規模災害時に、全国の防災機関と連携・連動して災害応急活動を展開

南海トラフ地震への対応

- M8～9地震の30年以内発生確率60～90%程度
- L2地震時の死者約27,000人・全壊約367,000棟
- L1地震時の本県・直接的経済被害額19.4兆円

「県土全体の災害対応力」の強化が急務

整備計画地



『南海トラフ応急対策活動計画』
(内閣府)に基づき、
「愛知県全域」を対象とした
「後方支援機能」を確保

- ・支援要員 約6,500(人/日)
- ・支援物資 約31,000パレット(枚/日)
- ・車 両 約3,400(台/日)を稼働

規模 19.2ha

災害時のレイアウト



平常時は、「消防学校」、
「公園」として活用

基本方針

- 「空港・高速道路」のダブルアクセス性を確保
- 本部機能として「24時間危機管理体制」を確保
愛知県・名古屋市の「消防学校の統合」を検討
- 「支援要員」のベースキャンプ機能を確保
- 「緊急支援物資」の備蓄と中継・分配機能を確保
- 広域医療搬送拠点臨時医療施設(SCU)を設置
- 中部圏の「基幹的な拠点」としても貢献



南海トラフ地震に備えた取組

～ゼロメートル地帯における広域的な防災活動拠点の整備～

- 南海トラフ地震に係る県の被害予測調査結果では、ゼロメートル地帯を中心に、県内の広大な範囲が長期間にわたり浸水すると想定されている。
- 浸水した地域においても、自衛隊、消防等による救出救助活動が円滑に行われるよう、ゼロメートル地帯における広域的な防災活動拠点の整備を進めている。

【整備概要】

○整備か所 計4か所

- ・木曽三川下流域

1か所目 愛西市・旧永和荘跡地(2023年3月18日供用開始)

2か所目 弥富市・海南こどもの国

- ・西三河南部地域

西尾市行用町

(2025年3月15日供用開始)

- ・東三河南部地域

国道23号豊川橋料金所跡地



【ゼロメートル地帯広域防災活動拠点
(木曽三川下流域Ⅰ・愛西市)】

○整備内容

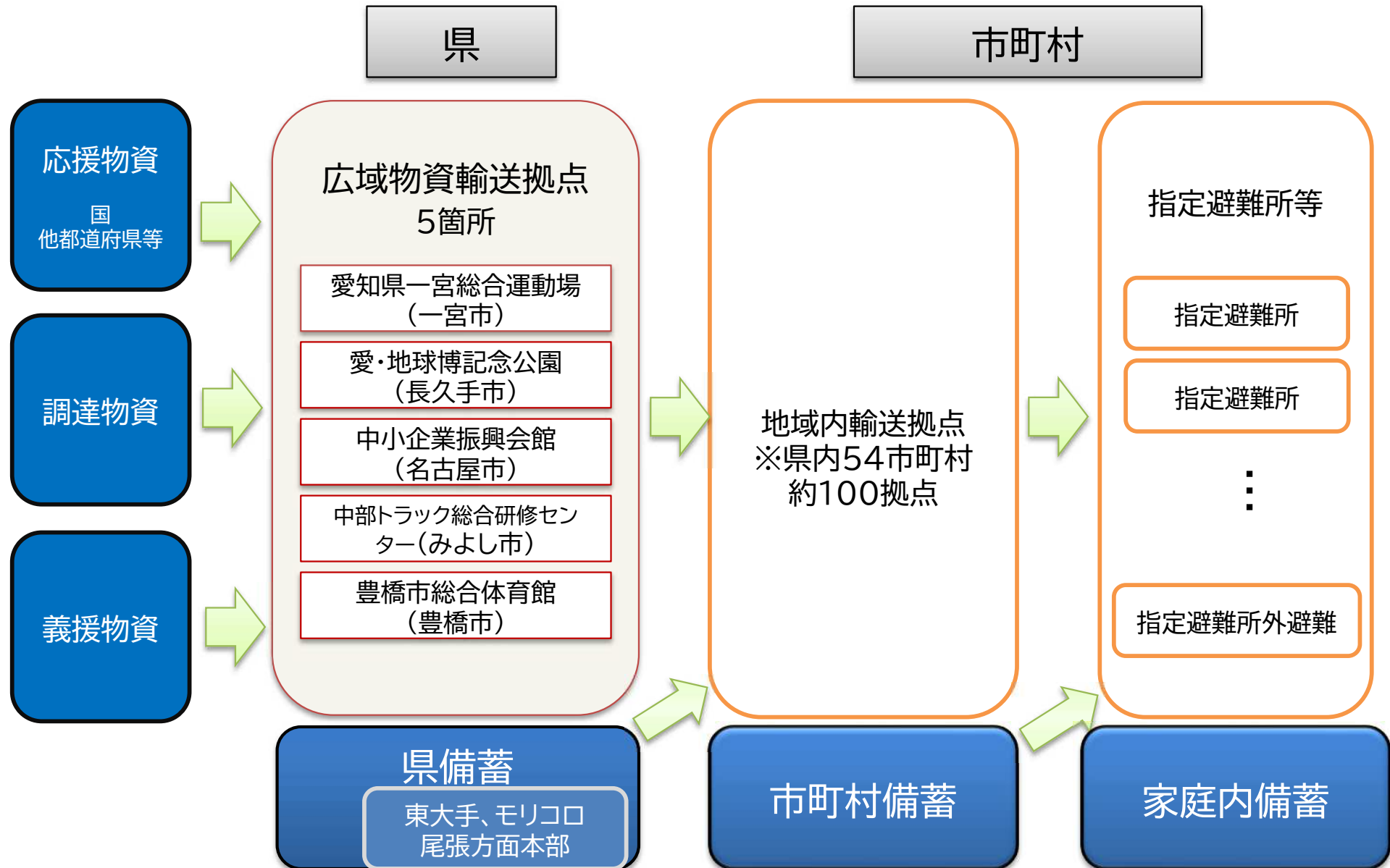
- ・盛土地盤（津波によって浸水しない地盤高に造成、液状化対策）
- ・ヘリの離発着場（大型ヘリの離発着が可能な規模）
- ・救出・救助ボートの船着場（救出・救助された住民が下船）
- ・防災倉庫（資機材を収納、一時的な待避スペース）



南海トラフ地震に備えた取組

～食糧及び生活必需品の備蓄計画に基づく物資の調達体制の整備等～

○本県における災害時の物資の流れ



南海トラフ地震に備えた取組

～食糧及び生活必需品の備蓄計画に基づく物資の調達体制の整備等～

家庭内備蓄の促進

防災パンフレットの配布、イベント等を通じて、家庭内備蓄を呼びかけています。



災害時に備えて、各家庭で可能な限り1週間分程度、最低でも3日分程度の食料・飲料水を備蓄しましょう！



広域物資輸送拠点開設運営訓練の様子↑

県・市町村における災害救助用備蓄物資の確保

・県・市町村では、本県被害予測調査結果等を踏まえ、発災後3日間に必要となる物資の備蓄を進めています。また、民間企業との協定締結により、民間調達先のさらなる確保を図っています。



支援物資の円滑な輸送体制の強化

・2016年の熊本地震において、熊本県の物資拠点が被災して使用不能となり、避難者までの支援物資の供給に混乱が生じたことを踏まえて、被災者への支援物資の円滑な輸送体制の強化を図るため、2020年4月16日に、佐川急便株式会社、ヤマト運輸株式会社、西濃運輸株式会社、名鉄運輸株式会社との間で、「災害時における物流施設の使用等に関する協定」を締結しました。

・2016年度から災害物流円滑化検討会を設置し、県内の広域物資輸送拠点(5か所)から避難所まで、円滑に物資を輸送するスキームを検討するとともに、訓練等を通じた課題の抽出や人材育成を実施しています。

南海トラフ地震に備えた取組

～国、県、市町村、防災関係機関、県民の連携による防災訓練の実施～

○防災の日及び津波防災の日を中心とする日に防災機関や県民が参加する訓練を実施

総合防災訓練

- 実施日 2026年12月20日(日)
- 実施主体 愛知県、知立市
- 開催場所 知立中学校 等

・8月30日から9月5日までの「**防災週間**」を中心とした期間に地震を想定した実働訓練を実施。

・防災関係機関相互の連絡協力体制の確立や災害応急対策の迅速化・的確化、地域住民の防災意識の高揚を図る。



自衛隊による救出救助訓練

あいちシェイクアウト訓練

- 実施日 2026年9月1日(日)
- 実施主体 愛知県

・県内全域を対象に、大規模地震を想定し、**防災の日**の**9月1日**(日)正午から1分間を基本として実施。

・県民が地震から身を守るための安全行動を身につけて防災・減災の意識の向上を図る。

・2024:123万9千人、2025:126万2千人参加



シェイクアウト訓練の様子

津波・地震防災訓練

- 実施日 2027年1月17日(日)
- 実施主体 愛知県、美浜町
- 開催場所 野間中学校 等

・**11月5日の津波防災の日**を中心とした期間に、南海トラフ地震と大津波を想定し、津波避難訓練を実施。

・地域住民が、津波避難場所に向けて避難訓練を実施するとともに、防災関係機関等の協力・連携のもとに、災害応急対策に係る訓練を実施する。



津波からの避難訓練の様子

南海トラフ地震に備えた取組

～個人・地域でできる取組～

自助

共助

アクション

1

家具を固定しよう！

今すぐ
チェック！

- ☐ 寝る場所に地震で倒れてくるものはありませんか？
- ☐ 冷蔵庫、食器棚、タンスは、地震がおきても倒れないように固定してありますか？

アクション

2

食料や飲料水を備蓄しよう！

今すぐ
チェック！

- ☐ 食料や飲料水を「3日分以上」備蓄していますか？

アクション

3

津波からの避難に備えよう！

今すぐ
チェック！

- ☐ 津波の浸水域など、ハザードマップを確認していますか？
- ☐ 避難場所、避難経路を確認していますか？
- ☐ どこに避難して、どう連絡を取り合うか、家族で事前に話し合っていますか？

アクション

4

地域の防災力を高めよう！

今すぐ
チェック！

- ☐ お住まいの地域に自主防災組織があるか知っていますか？
- ☐ 地域の自主防災活動に参加していますか？

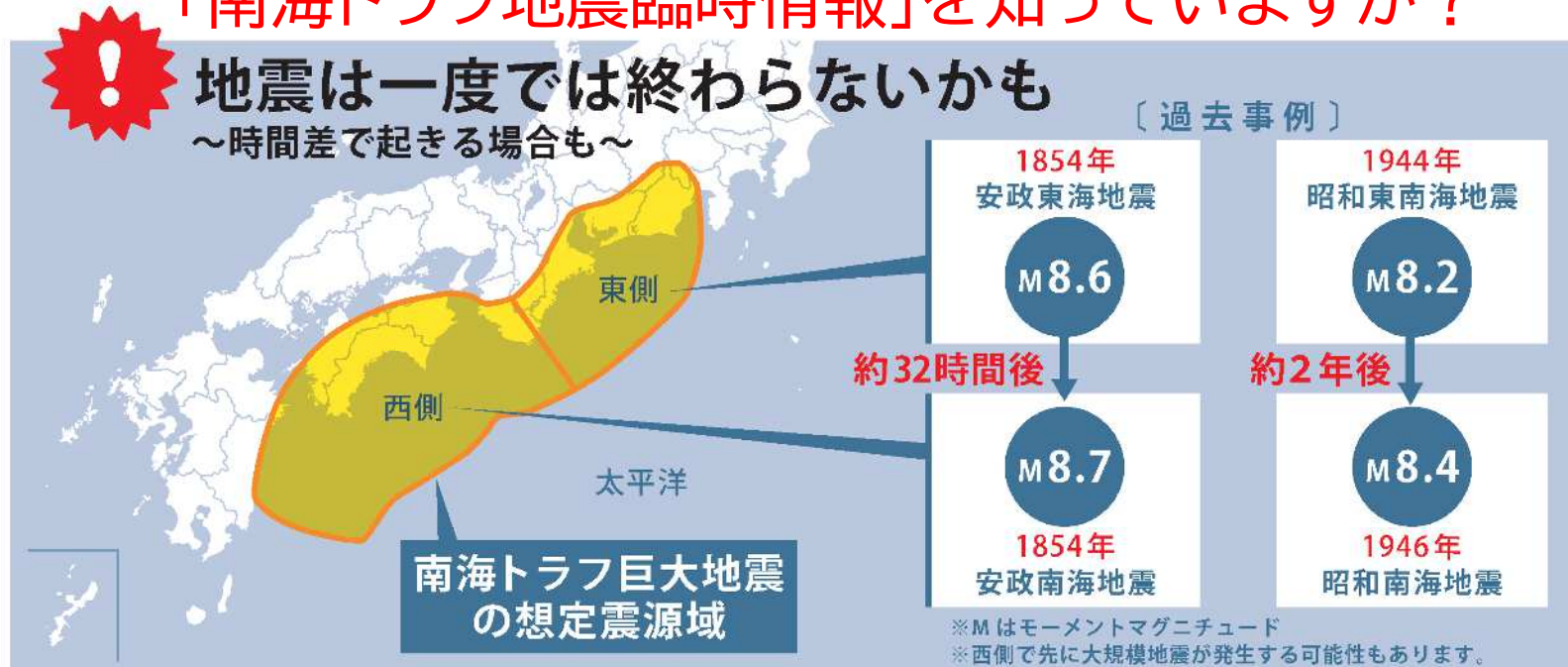
今すぐアクション！



南海トラフ地震臨時情報について

気象庁から発表される

「南海トラフ地震臨時情報」を知っていますか？



！ 時間差で発生する巨大地震に備えましょう
～南海トラフ地震臨時情報～

- ・南海トラフ地震の発生可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合に気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。
- ・政府や地方公共団体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとりましょう。

内閣府・気象庁作成リーフレット「南海トラフ地震 -その時の備え-」より

南海トラフ地震臨時情報について

南海トラフ地震の主な発生形態

南海トラフ地震は、右図のオレンジの枠内を震源域として、過去から繰り返し発生しており、発生の仕方も様々な大規模地震です。

①全割れ 全域で一斉に地震発生

②半割れ 西側で地震発生！
→東側でも地震が発生するかも!?
※この場合、愛知県の一部の地域でも「事前避難」などの防災対応が必要

③半割れ 東側で地震発生！
→西側でも地震が発生するかも!?
※この場合、愛知県では突発地震への防災対応が必要

南海トラフ地震の前兆現象？

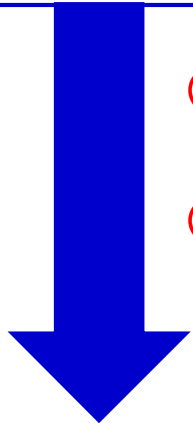
●一部割れ 南海トラフ沿い周辺のどこかで…



南海トラフ地震臨時情報について

これまでの地震対策

突発地震対策 + 地震予知を前提とした東海地震対策



○現在の科学的知見からは地震予知は困難

（今後、東海地震予知情報は発表されない）

○ただし、何らかの現象の発生により、地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると評価することはできる
（南海トラフ地震臨時情報の運用開始）

これからの地震対策

- ・突発地震対策が基本
- ・さらなる被害の軽減を目指す観点で、
南海トラフ地震臨時情報を有効に活用する

南海トラフ地震臨時情報について

防災対応をとるべき3つのケースと発表される情報

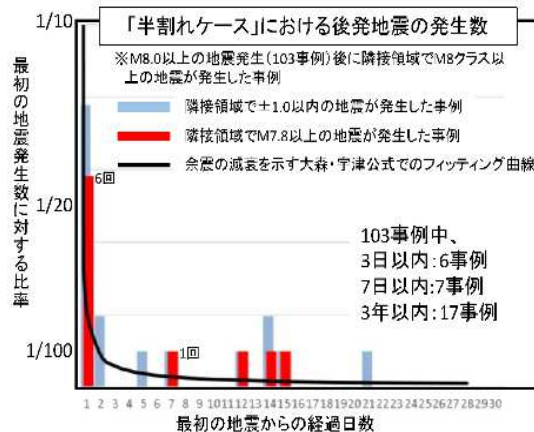
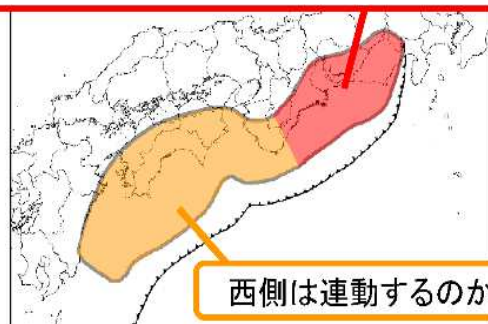
南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)

半割れ(大規模地震 **M8.0 以上**)/被害甚大ケース

<評価基準>

- ・南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生した場合

南海トラフ東側で大規模地震(M8クラス)が発生



7日以内に発生する頻度は
十数回に1回程度
(7事例/103事例→約7%)
→通常の**100倍程度**の頻度

※通常 (※60~90%程度以上)
「30年以内に80%程度」の確率を
7日以内に換算すると
おおむね千回に1回程度
→おおむね0.1%程度

南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)

一部割れ(前震可能性地震 **M7.0 以上 8.0 未満**)/被害限定ケース

<評価基準>

- ・南海トラフの想定震源域及びその周辺においてM7.0以上の地震が発生した場合(半割れケースの場合を除く)

南海トラフで地震(M7クラス)が発生



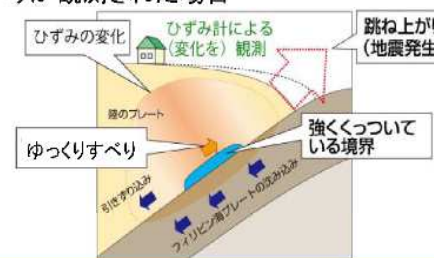
7日以内に発生する頻度は
数百回に1回程度
(6事例/1,437事例→約0.4%)
→通常の**数倍程度**の頻度

南海トラフの大規模地震の前震か?

ゆっくりすべり/被害なしケース

<評価基準>

- ・ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合



南海トラフ地震臨時情報について

「南海トラフ地震に関連する情報」の名称と発表条件

○「南海トラフ地震に関連する情報」は、以下の2種類の情報名で発表します

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震臨時情報	○南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ○観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
南海トラフ地震関連解説情報	○観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合 ○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く）

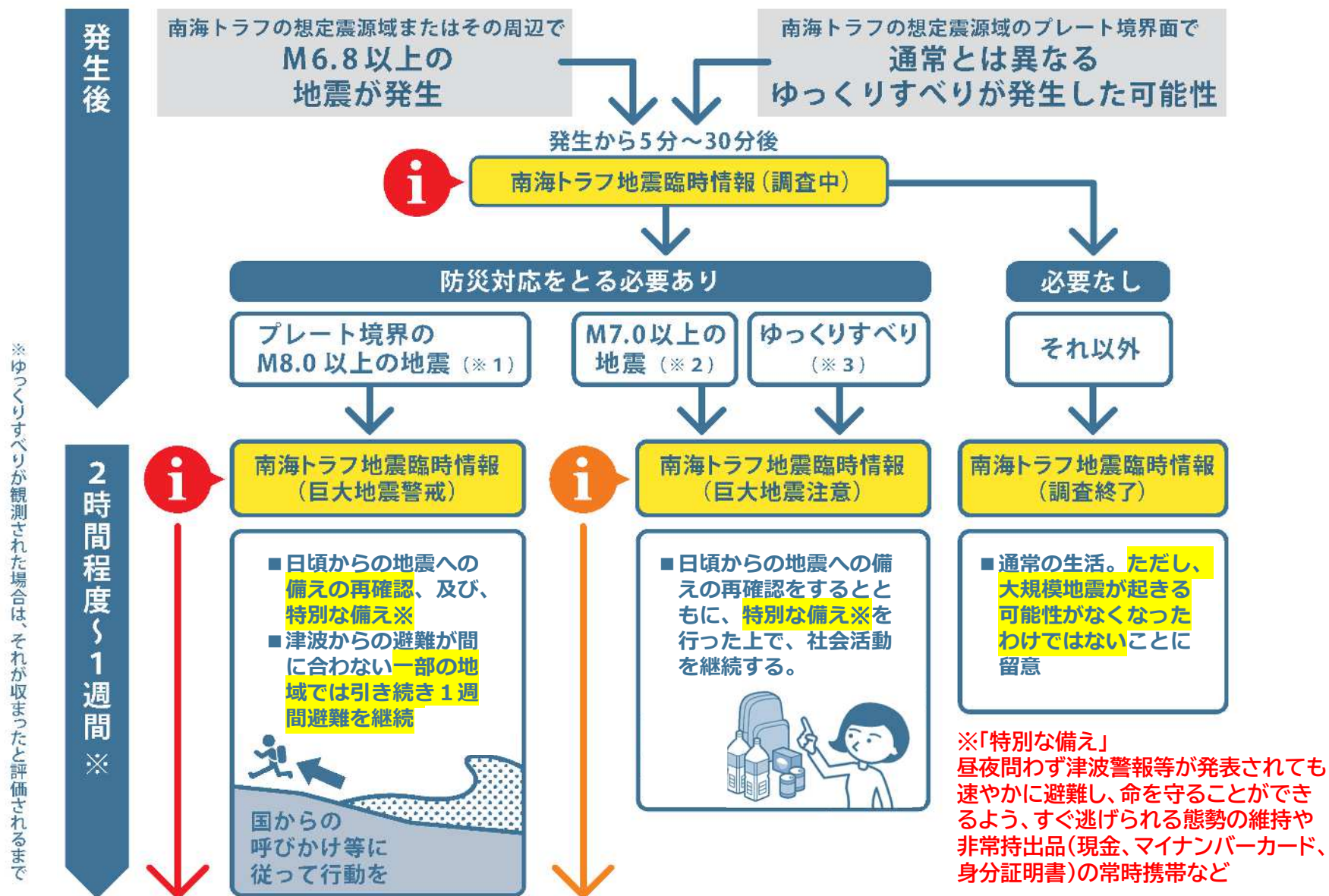
○「南海トラフ地震臨時情報」に付記するキーワードと各キーワードを付記する条件
 情報名の後にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」等の形で情報発表します

調査中	観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
巨大地震警戒	南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生したと評価した場合
巨大地震注意	南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上M8.0未満の地震や通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合等
調査終了	（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

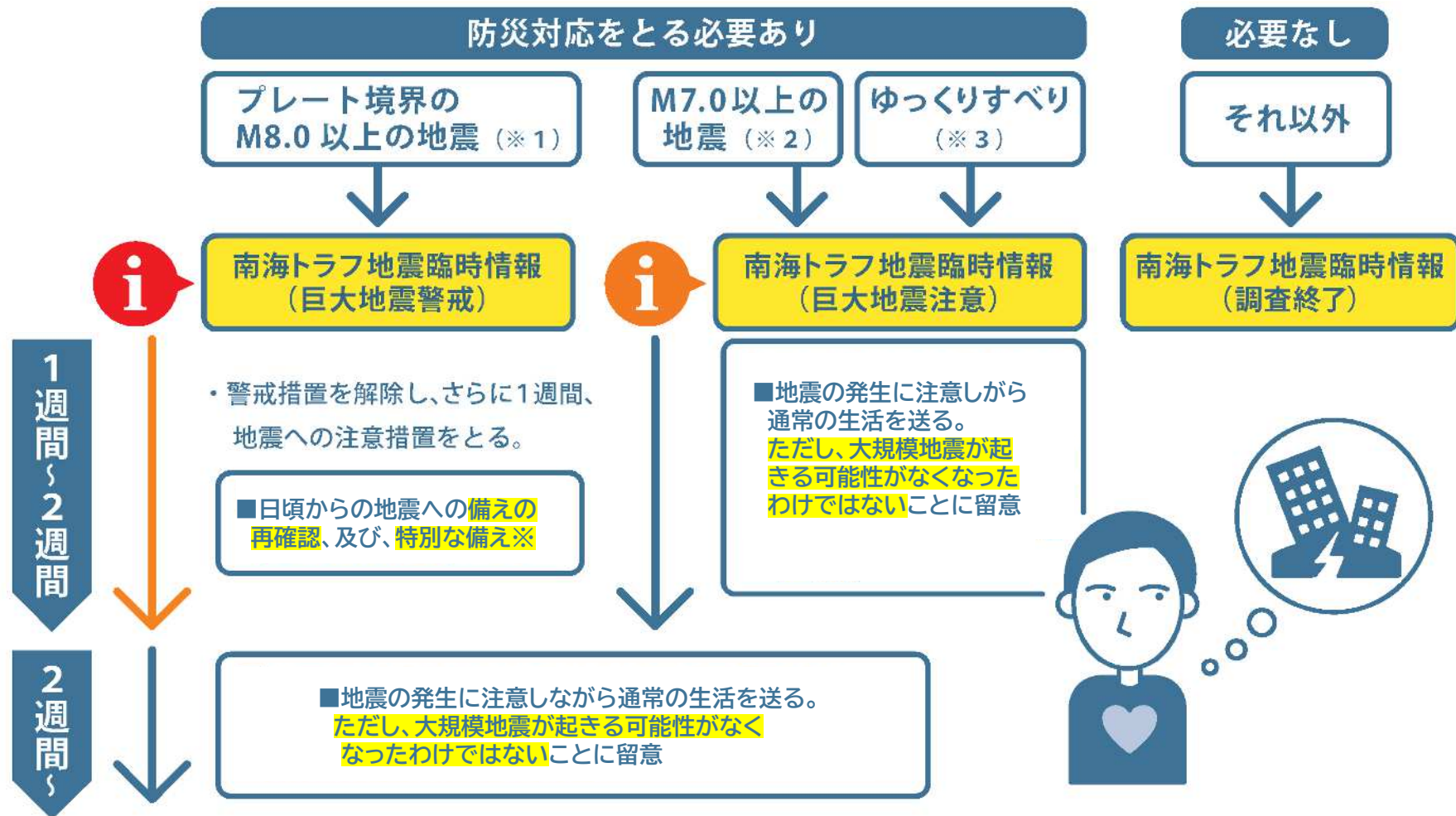
※本情報を発表していなくても、南海トラフ沿いの大規模地震が発生することもある。

南海トラフ地震臨時情報について

地震発生後の防災対応の流れ



南海トラフ地震臨時情報について



※「特別な備え」
昼夜問わず津波警報等が発表されても速やかに避難し、命を守ることができるよう、すぐ逃げられる態勢の維持や非常持出品(現金、マイナンバーカード、身分証明書)の常時携帯など

内閣府・気象庁作成リーフレット「南海トラフ地震 -その時の備え-」を加工

南海トラフ地震臨時情報について

※ 2 日頃からの地震への備えを再確認って何するの？



- ☐ 住んでいる地域でどんな災害の危険性があるか知っていますか？
- ☐ 自宅は地域で想定されている地震に対して十分な耐震性がありますか？
- ☐ 室内の家具転倒防止などの対策をおこなっていますか？
- ☐ 地震が起きたときに、その場の状況に応じて身を守る心構えがありますか？
- ☐ 非常持ち出し品・自宅での避難生活用品などの備蓄品を用意していますか？
- ☐ 災害情報や、避難に関わる情報を入手できる準備をしていますか？
- ☐ 家族が離れているときの安否確認の方法を決めていますか？

備えの再確認！
✓チェックしよう！



詳しい「備え」については、愛知県が作成した「やさしい防災・減災備え（そなえる）ガイド（家庭編）」を参考にして、各項目の備えを万全にしていきましょう！

愛知県公式HP
防災危機管理課へ



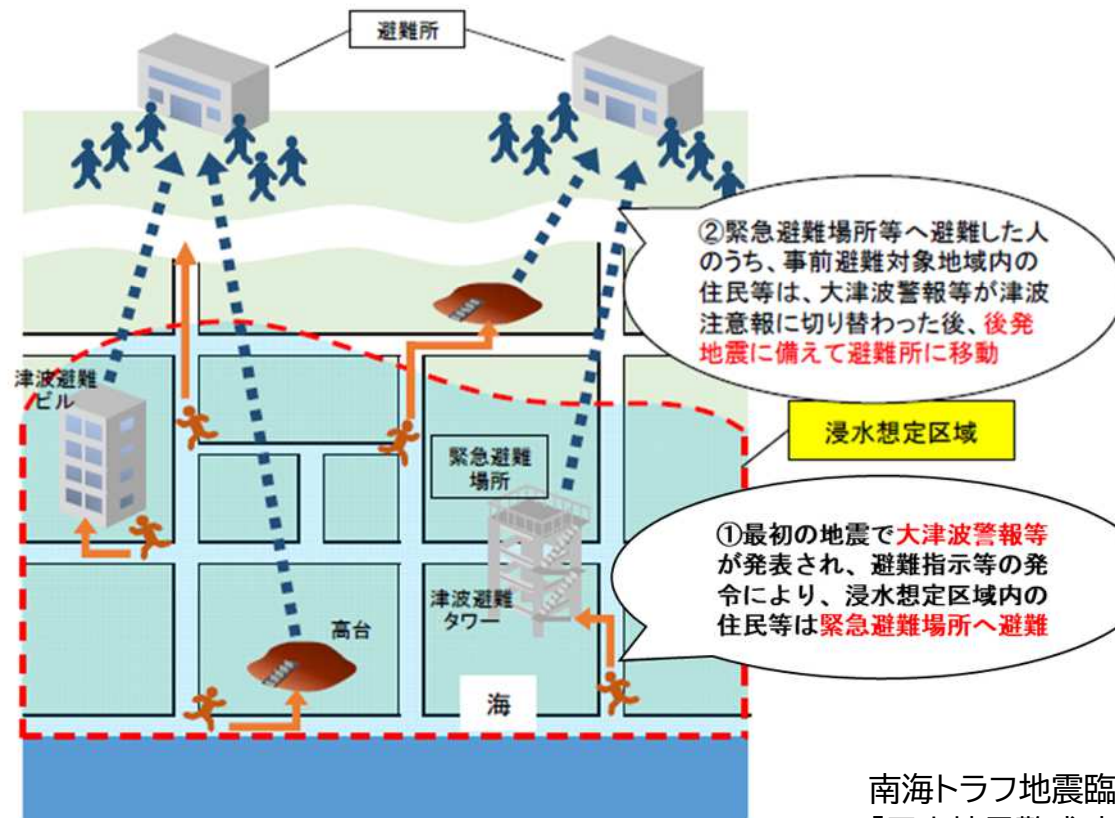
「特別な備え」

昼夜問わず津波警報等が発表されても速やかに避難し、命を守ることができるよう、すぐ逃げられる態勢の維持や非常持出品（現金、マイナンバーカード、身分証明書）の常時携帯など

南海トラフ地震臨時情報について

現在の動き

○南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)が発表された場合に避難を促す、「事前避難対象地域」を市町村が設定(※)



※市町村区域内の一部を事前避難対象地域に設定している市町村
(2025年7月24日現在)

名古屋市、豊橋市、碧南市、刈谷市、西尾市、東海市、高浜市、田原市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村

〔以上の他にも一部の市町村において設定を検討中〕

南海トラフ地震臨時情報発表時における防災対応の内
「巨大地震警戒時の事前避難」の検討手引き(愛知県作成)より

図 33 情報発表時の避難イメージ

南海トラフ地震臨時情報について

【参考】

南海トラフ地震臨時情報発表時の防災対応 解説資料



内閣府 防災情報のページ <https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/leaflet.html>

南海トラフ地震臨時情報について

【参考】

南海トラフ地震臨時情報発表時の防災対応 解説資料



南海トラフ地震の歴史を学ぶwebサイト

先人たちは
何を伝えようとしたか、
その声に耳を
傾けてみんかのぉ。

げんさい
減斎さん



歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト

<https://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/>

災とSeeing

<https://www.saitoseeing2020.jp/>

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち 月報

<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>

